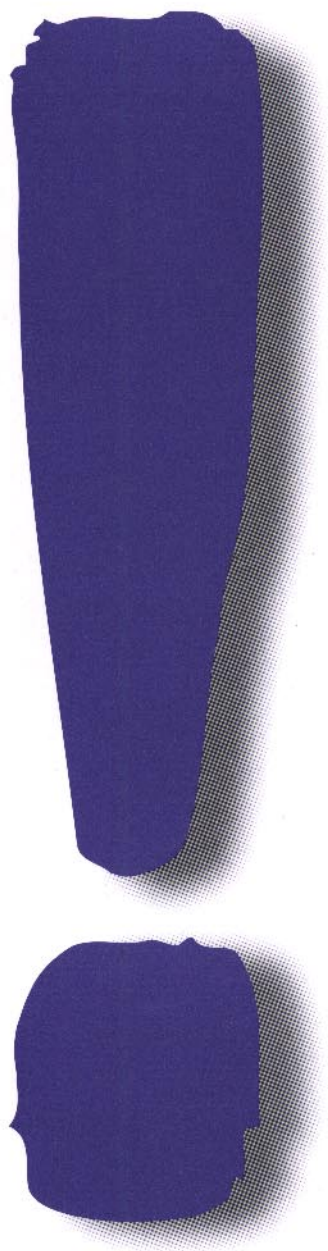


わかる、できる、役に立つ!!

インストールガイド



最初に電源を入れるときの、必読書!

インストール設置場所、取り出し方から親切に説明!

接続に迷ったときは、161冊!

PC98-NX SERIES

VALUESTAR NX

VS33D/VS30D/VS26D(M)

マニュアルを

読む順序

各マニュアルの主な内容は表紙に書いてあります。次の順序で読み進めてください。

1

まずこれ!



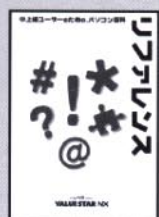
2

次にこれ!



3

目的に合ったマニュアルを選んで読む



添付の「安全にお使いいただくために」は常に手元に置き、各マニュアルと合わせて必ずお読みください。

やりたいこと別マニュアルガイド

パソコンの接続とセットアップをしたい	STEP 1 接続と準備
マウスの使い方を知りたい	STEP 2 入門
キーボードで文字を打ててみたい	STEP 2 入門
ワープロを使いたい	STEP 2 入門
インターネットを利用したい	インターネット入門
FAX 機能を利用したい	リファレンス
プリンタをつなげたい	拡張の手引き
オプション機器を取り付けたい	拡張の手引き
Windows 95 について知りたい	STEP 3 活用
デスクトップについて知りたい	STEP 3 活用
パソコンの中に入っているソフトを使いたい	リファレンス
このパソコンの機能について詳しく知りたい	リファレンス
パソコンが思うように動かない	困ったときの Q&A
パソコンをお手入れする方法を知りたい	困ったときの Q&A
再セットアップしたい	困ったときの Q&A



はじめに

この本は、パソコンを買ったら最初にしなければならない、接続と準備について説明します。はじめてパソコンに触れる人でも、迷ったりすることなく、まちがえずに操作を進めていけるように作られています。

パソコンの箱を開けて、置き場所に迷ったりしたときから、この本があなたの役に立つはずです。はじめて電源を入れ、パソコンを使えるようにするための準備作業についても、ていねいに説明しています。すでにパソコンを使ったことがある方も、この本は、必ず読んでください。

1998 年 2 月 初版

このマニュアルの表記について

手順は左、補足説明は右に

このマニュアルでは、操作手順は順番に画面を示しながら説明しています。実際のパソコンの画面を確かめながら操作を進めてください。パソコンの画面でやたらにマウスを操作すると、思わぬ画面が表示されることがあります。このマニュアルで、どこを操作すればよいのか必ず確認してください。また、ページの右側のグレーの部分には、操作に関連する補足説明や用語解説などが記載されています。はじめてパソコンを扱うかたは、右側の説明もよく読んでください。

このマニュアルでは、パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています



警告

注意事項を守っていただけない場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



注意

注意事項を守っていただけない場合、人が傷害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみ発生が想定されることを示します。



感電注意

注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左のマークは感電の可能性が想定されることを示しています。このほかに、発火注意、けが注意、高温注意についても、それぞれ記載しています。



禁止事項を示します。



電源ケーブルのプラグを抜くように指示するものです。



アース線を必ず接続するように指示するものです。

このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります



チェック!!

してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。



ポイント

そこまでに説明した手順の中でとくに大切なポイントがまとめられています。後から応用するときのヒントとして利用してください。



パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。



マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。

このマニュアルで使用している表記の意味

このパソコン 次の各モデル(機種)を指します。

	型名	型番
	VS33D/M7 model CD2	PC-VS33DM7CD2
	VS33D/M7 model DD2	PC-VS33DM7DD2
	VS33D/M7 model CB2	PC-VS33DM7CB2
	VS33D/M7 model DB2	PC-VS33DM7DB2
	VS30D/M7 model CA2	PC-VS30DM7CA2
	VS30D/M7 model DA2	PC-VS30DM7DA2
	VS30D/MZ model CA2	PC-VS30DMZCA2
	VS30D/MZ model DA2	PC-VS30DMZDA2
	VS26D/M7 model CA2	PC-VS26DM7CA2
	VS26D/M7 model DA2	PC-VS26DM7DA2
CD-ROMモデル	CD-ROMドライブを搭載しているモデルのことです。 model CA2、model DA2を指します。	
CD-Rモデル	CD-Rドライブを搭載しているモデルのことです。 model CB2、model DB2を指します。	
DVD-ROMモデル	DVD-ROMドライブを搭載しているモデルのことです。 model CD2、model DD2を指します。	
ディスプレイ セットモデル	VS33D/M7、VS30D/M7、VS26D/M7を指します。	
ディスプレイなし モデル	ディスプレイが別売となっているモデルです。VS30D/MZを指します。	
一太郎モデル	一太郎8、三四郎8、FullBandがあらかじめインストールされているモデルのことです。model CA2、model CB2、model CD2を指します。	
Wordモデル	Word、Excel、Outlookがあらかじめインストールされているモデルのことです。model DA2、model DB2、model DD2を指します。	
【 】	【 】で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。	
プリンタ、 コネクタなど	「プリンター」や「コネクター」などの末尾に付く「ー」を省略して表記しています。これは、パソコンの画面に表示される用語や、パソコン関連書籍などでよく使われている表記に準拠しているためです。	

本文中の画面 本文中の画面はモデルによって異なることがあります。また、実際の画面と異なることがあります。

このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

(本文中の表記)

(正式名称)

Windows、
Windows 95

Microsoft® Windows® 95 Operating System

一太郎8

一太郎8 Office Edition /R.2

Excel、Word、
Outlook

Microsoft® Excel 97 & Word 97 & Outlook™ 97 for Windows®

ご注意

- (1)本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2)本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3)本書の内容については万全を期して作成いたしました。が、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBit-INN、または NEC パソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。
- (4)当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- (5)本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6)海外 NEC では、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
- (7)本機の内蔵ハードディスクにインストールされている Microsoft® Windows® 95 および本機に添付の CD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでご使用ください。
- (8)ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Outlook、およびWindowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

一太郎、ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「一太郎 Office8」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、これにかかる著作権、その他の権利はすべて株式会社ジャストシステムに帰属します。

商標「三四郎」は、株式会社エス・エス・ビーの登録商標であり、株式会社ジャストシステムは商標使用許諾を受けています。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

アフターケアについて

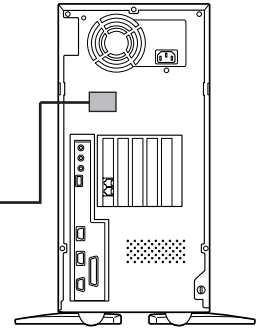
ご購入後、まず次のことを確認してください。

■ 型番と製造番号を確認してください

本体の型番と製造番号は、本体背面の図の位置に記載されています。製造番号が保証書の番号と同じであることを確認してください。万一違う場合は、ご購入元にご連絡ください。

セットのディスプレイについても、同様に確認してください。

型番と製造番号は、ここに記載されています。



■ 保証書について

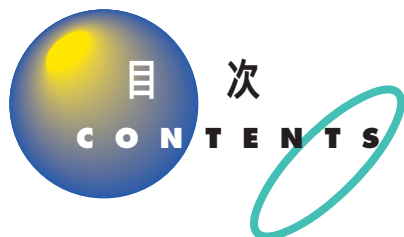
保証書は、ご購入元で所定事項をご記入のうえ、お受け取りになり、保管してください。保証期間中に万一故障した場合は、保証書記載内容にもとづいて修理いたします。保証期間後の修理については、ご購入元または、NEC サービスセンター、サービスステーションにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有償修理いたします。詳しくは、保証書をご覧ください。

© NEC Corporation 1998

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

■ 輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠しておりません。本製品は日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等を行っておりません。



はじめに	i
このマニュアルの表記について	ii
アフターケアについて	vi

PART

1



パソコンを置く場所を決めよう 1

置き場所を決める	2
パソコンを置くのに適した場所	2
パソコンを置くのに必要な広さ	3
インターネットするなら、パソコンは電話の近くに	4
パソコンを置くのに適さない場所	5
パソコンの近くに置いてはいけないもの	5
電源の取り方	7
パソコンに必要な電源	7
パソコンの置き方	8
パソコン本体の梱包箱からの取り出し方	8
接続する前に	10
パソコンの周囲に添付品を置く	12

PART

2



パソコンを接続する 13

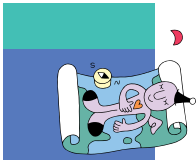
接続するときの注意	14
キーボードを接続する	15
キーボードの足を立てる	16
マウスを接続する	17
ディスプレイを接続する	18
マイクロホンを接続する	20
マイクスタンドを組み立てる	20
パソコン本体にマイクロホンを接続する	20
オーディオケーブルを接続する(DVD-ROM モデルのみ)	21
スピーカシステムを接続する	22
フラットパネルスピーカを組み立てる	22
フラットパネルスピーカをサブウーファに接続する	23
サブウーファをパソコン本体に接続する	24
フラットパネルスピーカをディスプレイに取り付ける	26
フラットパネルスピーカを壁に取り付ける	28

PART

3



電話回線に接続する	29
モジュラーケーブルを確認する	29
モジュラーケーブルにノイズ除去用部品を取り付ける	30
電話機をパソコンにつなぐ	31
パソコンを電話回線につなぐ	32
アースを接続する	33
電源ケーブルを接続する	35
電源ケーブルを確認する	35
ディスプレイ用電源ケーブルを接続する	36
フラットパネルスピーカシステムの AC アダプタを接続する	37
パソコン本体の電源ケーブルを接続する	38
電源を入れてパソコンを使えるようにする	41
電源を入れる	42
名前を打ち込む	45
マウスを動かしてみる	45
ローマ字が打てるようにする	46
自分の名前をローマ字で打ち込む	48
「次へ」をクリックする	49
Windows の Product ID を入れる	50
使用許諾契約に同意する	50
Product ID (プロダクト アイディ) を入れる	51
残りの手順を最後まで進める	53
「ようこそ Microsoft Internet Explorer」の画面を閉じる	53
ValueStar の設定を行う	54
パソコンの電源を切る	56
パソコンの電源を入れ直して確認する	58
もう一度、パソコンの電源を切る	60
正規ユーザーの登録を行う	62



付録 63

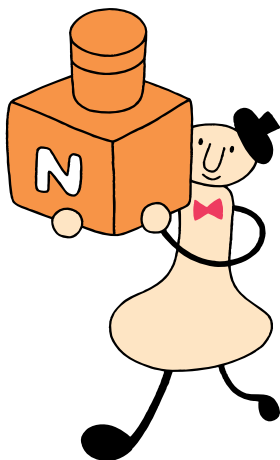
こんなときは 64

ローマ字つづり一覧 66

索引 69

パソコンを置く場所を決めよう

まず最初にパソコンを置く場所を決めましょう。パソコンは精密機械ですから、置き場所についてはいくつか気をつけなければいけないことがあります。説明をよく読んで置き場所を決めたら、梱包箱からパソコンを取り出します。





置き場所を決める

まず、パソコンを置く場所を決めましょう。パソコンには、置くのに適した場所、適さない場所があります。また、パソコンの近くに置いてはいけないものもあります。

⚠ 注意



感電注意

液体がかかる場所や湿気の多い場所に置かないでください。

パソコンを、水や油などの液体がかかる場所、湯気がかかる場所、湿気の多い場所に置くと、感電の原因になります。



感電注意

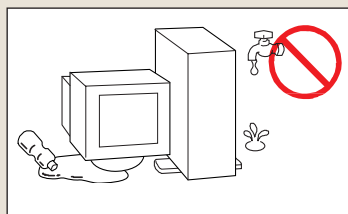
パソコンを屋外に置かないでください。

また、船舶、車輛などの内部では使用しないでください。



発火注意

感電、火災の原因になります。



パソコンを置くのに適した場所

1

屋内

パソコンは必ず屋内に置いてください。



2

温度 18℃ ~ 28℃ (結露しないこと)

湿度 45% ~ 75%

温度や湿度は、それほど気にする必要はありません。一応の目安として考えてください。

3

平らで十分な強度がある台の上

(パソコンが落ちるおそれがないこと)

パソコンを置くのに適当な台がない場合は、市販のパソコンラックなどを使うこともできます。使いやすさをよく考えて選びましょう。また、本体の転倒防止のために、スタビライザ(本体底面にある脚)を使ってください。

4

ホコリが少ない

パソコンにホコリは大敵です。ホコリの少ない場所を選んでください。

用語

結露

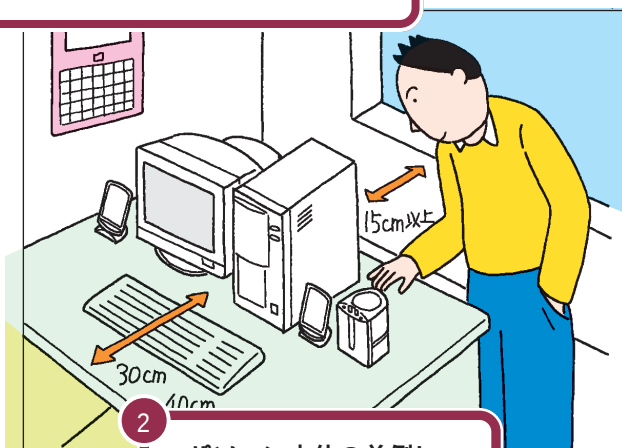
空気中の水分が金属板などの表面に触れて水滴となる現象です。寒い屋外から暖かい室内に入るとメガネが曇ったりするのも、結露の一例です。パソコンを温度の低い場所から暖かい部屋に持ち込んだりすると、機械の外側や内部に結露することがあります。このようなときは、電源を入れずに1時間以上置いておき、結露が収まるのを待ってから使ってください。

パソコンを置くのに必要な広さ

パソコンを置くだけなら、およそ70cm × 50cmの広さがあれば済みます。しかし実際には、キーボードやマウス、スピーカ、サブウーファを置く場所や、配線のためのスペースも必要です。

1

パソコン本体の後ろ側に約50cm
(最低15cm)

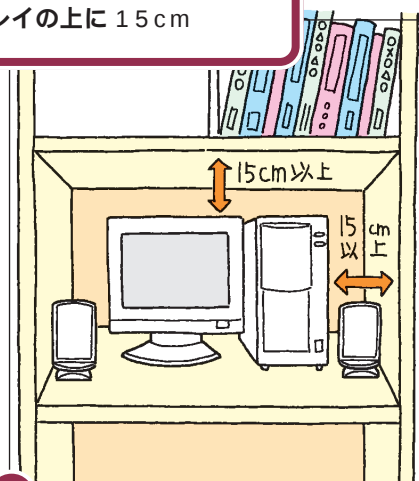


2

パソコン本体の前側に
約30～40cm

3

ディスプレイの上に15cm



4

パソコン本体の右側に15cm

本体の右側には通風孔があるので、ディスプレイは本体の左側に置きます。

本体の後ろ側には通風孔があるので、壁などから最低でも15cm離す必要があります。しかし、それだけではあとで配線をするときに大変です。50cm程度の余裕があれば、パソコンの後ろ側がよく見えるので、接続の作業が楽になります。

キーボードを置くためには、約20cm必要です。その上、ゆったりとキーを打つためには、さらに約10～20cmの余裕があったほうがよいでしょう。

意外に忘れがちなのが、パソコンの上の空間です。ディスプレイの上側にも通風孔があるので、通風孔と棚の天板などとの間を最低でも15cmあけてください。また、ディスプレイの上に物を置かないようにしてください。

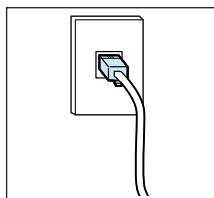
本体の右側には通風孔があるので、壁などから最低でも15cm離してください。また、周辺機器を使うときも通風孔をふさがないように注意してください。

インターネットするなら、パソコンは電話の近くに

インターネットなど、パソコンの通信機能を利用するには、パソコンを電話線に接続する必要があります。あらかじめ電話機のそばにパソコンを設置しておくことをお勧めします。また、電話回線の接続口によっては、パソコンを接続できない場合があるので確認しておきましょう。

1

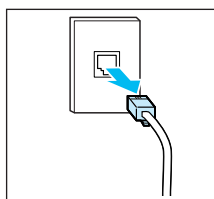
現在使っている電話機の
電話線を調べる



2

電話線のプラグが簡単に
抜けることを確かめる

プラグを抜いたら、すぐに戻して
おくようにしてください。



⚠ 注意

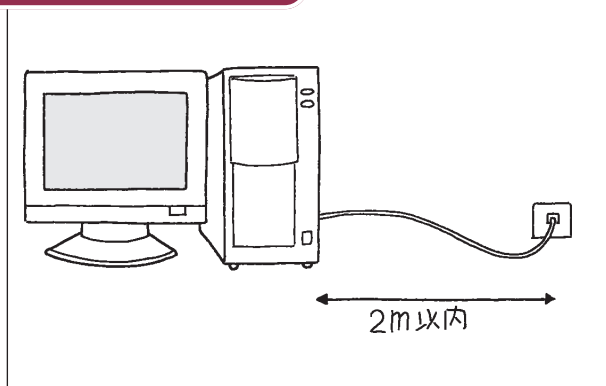


感電注意

モジュラーケーブル(電話線)を取り外したり、接続する
ときには、プラグの端子部分に触れないでください。
感電の原因になります。

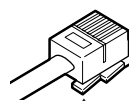
3

電話機の接続口から 2 m
以内で、パソコンを置くの
に適切な場所を決める



電話機の本体から電話線をたどっていくと、電話回線の接続口を見つけることができます。図のように電話回線を簡単に取り外せるような接続口(モジュラーコンセントと呼びます)になっていない場合、電話工事が必要になることがあります。詳しくは、お近くの電話工事店またはNTTにお問い合わせください。

電話線のプラグには、上下のどちらかにツメが付いています。このツメを指でつまんで押さえるようにすると、簡単に抜くことができます。



ここを押さえて
取り外しができる

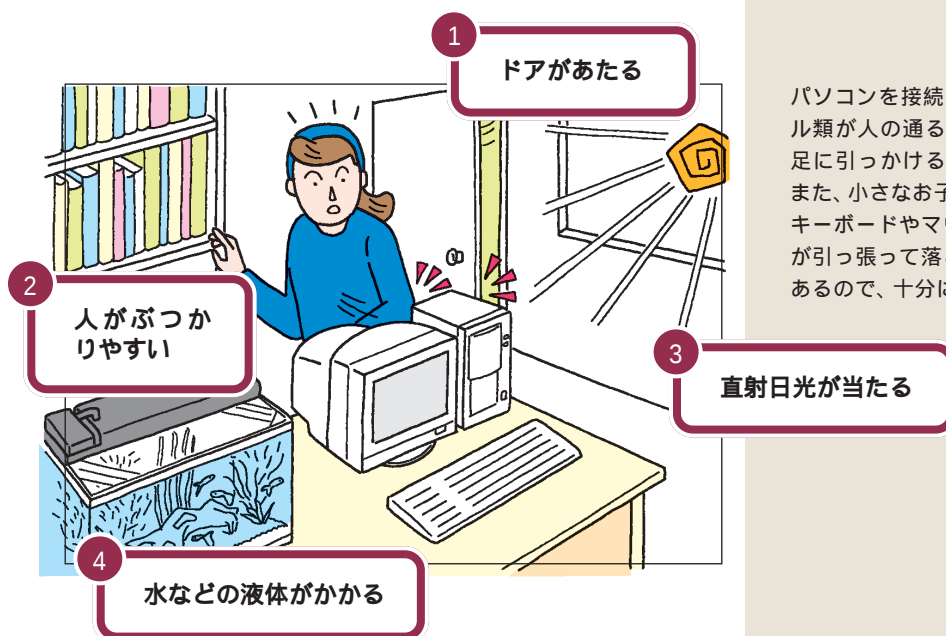
このパソコンを電話回線に接続するためのケーブルは、2 m の長さのものが付属しています。それよりも離れた場所にパソコンを設置する必要がある場合には、電気店またはパソコン販売店などで、3 m または 5 m の長さの「モジュラーケーブル」をお買い求めください。

用語

モジュラーケーブル

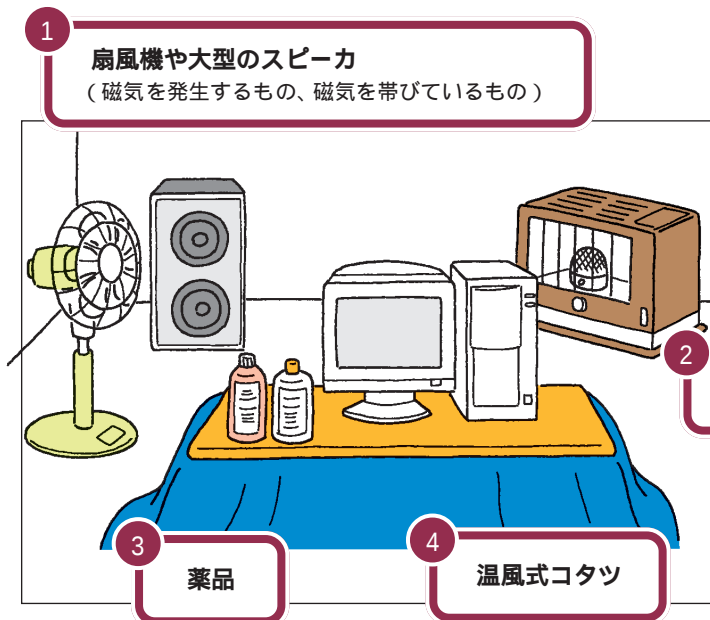
通常は、電話回線の接続口(モジュラーコンセント)と電話機を接続するのに使われるケーブルです。パソコンを電話回線の接続口につなぐときも、同じケーブルを使います。電気店などで購入できます。

パソコンを置くのに適さない場所



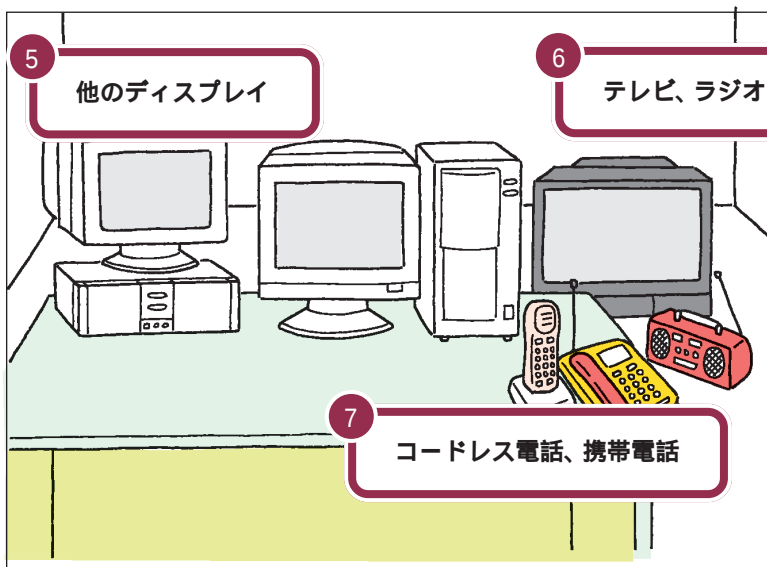
パソコンを接続したときに、ケーブル類が人の通る床をはっていると、足に引っかけるなどして危険です。また、小さなお子さんがある場合は、キーボードやマウスなどをお子さんが引っ張って落としてしまうこともあるので、十分にご注意ください。

パソコンの近くに置いてはいけないもの



パソコンは磁気の影響を受けやすいので、強い磁気が近くにあるとディスプレイの表示が揺れたり、色が乱れたりすることがあります。

温風式コタツも磁気を発生するので、パソコンを温風式コタツの上に置かないでください。



5 他のディスプレイ

6 テレビ、ラジオ

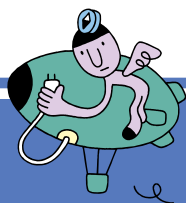
7 コードレス電話、携帯電話

他のディスプレイの表示が揺れたり、色が乱れたりすることがあります。

テレビやラジオにノイズが入ることがあります。

コードレス電話や携帯電話などで通話中のときにノイズが入ることがあります。

電源の取り方



パソコンの電源の取り方はとても大切です。コンセントの位置や数をよく確認しておきましょう。

注意



感電注意



発火注意



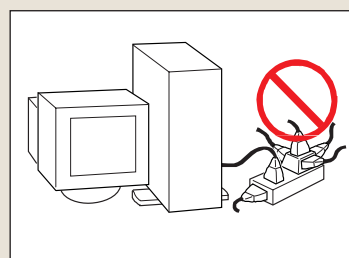
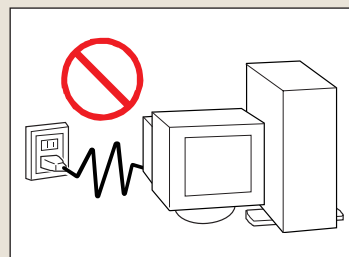
発火注意

電源ケーブルが折れ曲がらないようにしてください。

電源ケーブルが折れ曲がると、ケーブルに傷がついて、感電や火災の原因になります。

AC100V(50/60Hz)の電源が使える場所に置いてください。

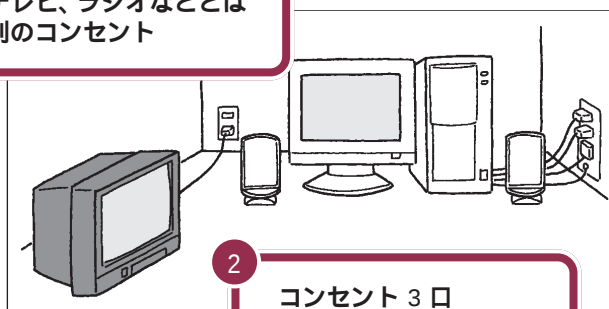
- ・AC100V(50/60Hz)以外の電圧で使用すると、感電、発煙、火災の原因となります。
- ・タコ足配線にならないように、コンセントから直接電源が取れる場所に置いてください。
- ・電源ケーブルやACアダプタをタコ足配線にすると、コンセントが過熱して火災の原因になります。



パソコンに必要な電源

1

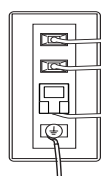
テレビ、ラジオなどとは別のコンセント



2

コンセント 3口

(アース端子付きのもの)



ディスプレイ

パソコン本体

ACアダプタ

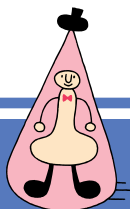
アース端子

パソコン本体の電源、ディスプレイの電源、スピーカの電源それぞれを取ります。電源は必ずコンセントから直接取ってください。延長コードやテーブルタップなどを使わないでください。

同じコンセントを使うと、テレビ、ラジオに雑音が入ることがあります。

コンセントにアース端子がない場合は、他の方法でアースを取っても構いませんが、その場合は必ずお近くの電気店など電気工事士の資格を持った人にアース端子付きコンセントの取り付けを相談してください。

パソコンの置き方



パソコンを箱から取り出すときは、2人で作業してください。持ち運んだり置いたりするときは慎重に。

⚠ 注意



パソコン本体を取り出すときは、衝撃吸収用の段ボールを持って取り出さないでください。また本体前面のスライドパネル部分を持って取り出さないでください。

衝撃吸収用の段ボールを持って取り出すと、パソコン本体が抜け落ち、けがやパソコン本体の破損の原因となります。

パソコン本体の梱包箱からの取り出し方



1

パソコン本体の箱から、パソコン本体をしっかりとって、衝撃吸収用の段ボールごと、ゆっくり上に引き出す

2

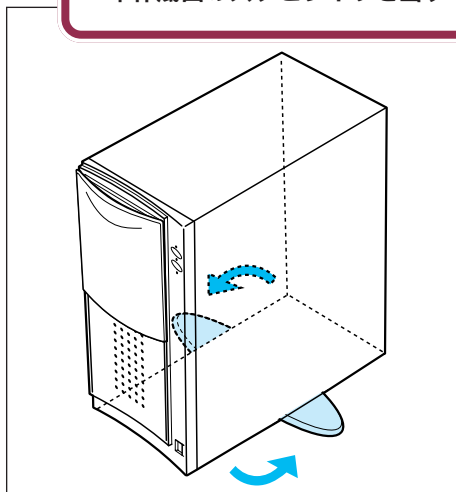
パソコン本体を置く

パソコン本体を取り出したら、衝撃吸収用の段ボールを引き抜きます。次に、ビニール袋から取り出すときも、パソコン本体に衝撃を与えないよう、2人で慎重に行ってください。

机の上やパソコンラックなど、あらかじめ決めておいた設置場所に置いてください。

3

本体底面のスタビライザを出す

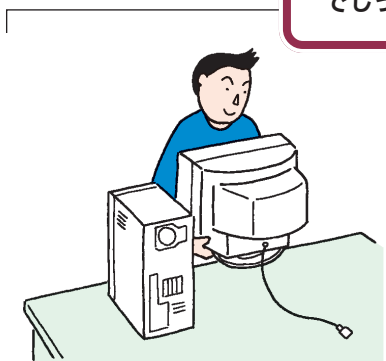


4

ディスプレイも、2人で慎重に箱から取り出す

5

ディスプレイの画面が見えるように立ち、ディスプレイの下に左右から手を差し込んでしっかり持つ



6

ディスプレイをパソコン本体の左に置く

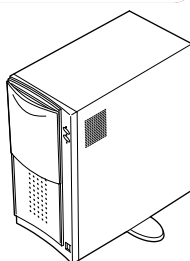
パソコンには、本体を安定して設置するためのスタビライザという脚があります。スタビライザは、梱包箱から出したままの状態では、本体底面にたたみ込まれています。先端を外側に回して左右に引き出してください。

接続する前に

接続を始める前に、必要な機器が揃っているか確認しておきましょう。ここでは、添付品のうち、接続に使用するものだけを記載しています。

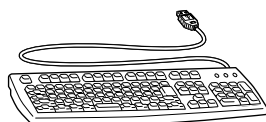
1

パソコン本体



2

キーボード



● 添付品収納箱に入っているもの

1

マウス



2

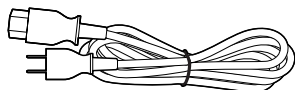
アース線



緑色の電線です。

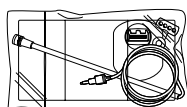
3

本体電源ケーブル(黒)



4

マイクロホン一式



5

モジュラーケーブル



7

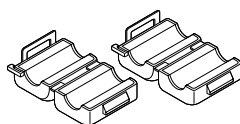
オーディオケーブル

(DVD-ROM モデルのみ)



6

ノイズ除去用部品

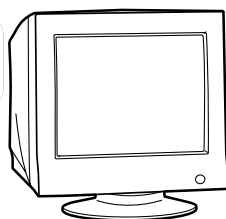


マイクロホン、マイクホルダー、マイクスタンドは、透明のビニール袋に入っています。ビニール袋から取り出しておきましょう。

● ディスプレイ梱包箱に入っているもの
(CRT ディスプレイセットモデルのみ)

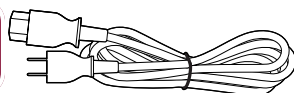
1

ディスプレイ



2

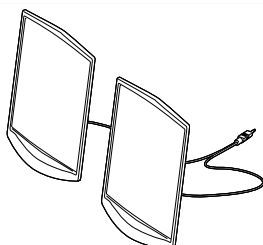
ディスプレイ用電源ケーブル(グレー)



● スピーカの梱包箱に入っているもの
「スピーカセット収納箱」と印刷されている箱に一式が入っています。

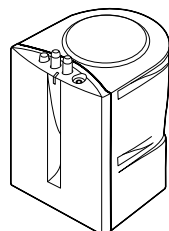
1

フラットパネルスピーカ



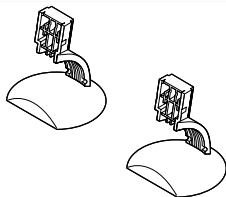
2

サブウーファ



3

スタンド



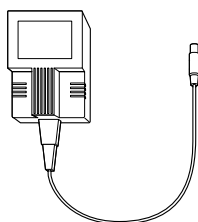
4

ミニプラグケーブル



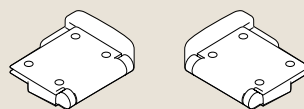
5

AC アダプタ

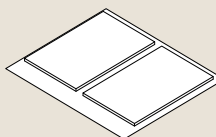


フラットパネルスピーカをディスプレイに取り付けるときは、次の添付品も準備しておきます。

・アタッチメント



・接着テープ

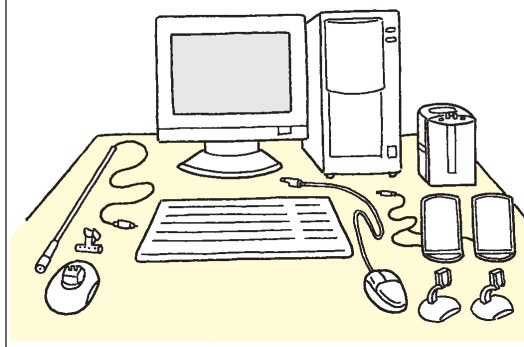


他に、プラスドライバーを準備してください。アース線の接続に必要です。

パソコンの周囲に添付品を置く

1

下のイラストのように、
添付品をパソコンの周囲
に置く



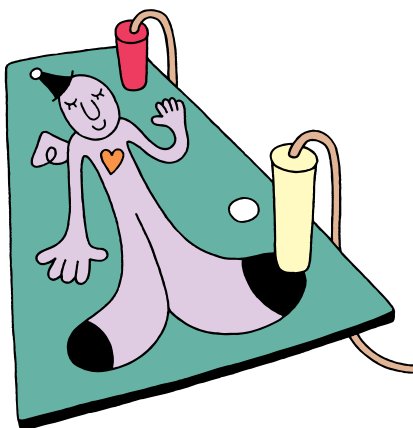
だいぶパソコンらしい姿になってきましたね。それでは、接続してみましょう。それぞれの接続方法については、次のPARTで説明しています。

P A R T

2

パソコンを接続する

キーボードやディスプレイなど、必要な機器を接続しないと、パソコンは動いてくれません。テレビやビデオと違って、いろいろなデータを扱うことができるパソコンの場合、ケーブルの接続口も独特の形のものが使われています。このあとの説明をよく読んで慎重に接続していきましょう。



接続するときの注意



機器を接続するときに守っていただく注意事項と、このパソコンを安全にお使いいただくための注意事項です。

⚠ 警告



雷が鳴り出したら、電源ケーブル、ACアダプタ、モジュラーケーブル(電話線)、USBケーブル(キーボードのケーブル)の接続作業を中止してください。落雷による感電のおそれがあります。

⚠ 注意



必ず本体にアース線を接続してください。
アース線を接続しないと、感電の原因になります。



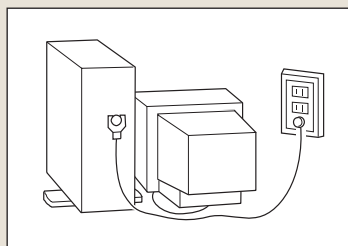
アース線を接続するときは、必ず電源ケーブルをコンセントから抜いておいてください。
感電の原因になります。



周辺機器を接続するときは、必ず電源ケーブルをコンセントから抜いておいてください。
感電の原因になります。



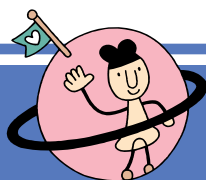
ケーブル類は、つまずいたりひっかけたりしないように整理してください。



プリンタなど、周辺機器の接続は、あとから

プリンタや別売の周辺機器がある場合、まだ接続しないでください。この本のPART 3「電源を入れてパソコンを使えるようにする」の操作を先に完了させる必要があります。そのあとで『拡張の手引き』をご覧ください。接続と設定を行ってください。

キーボードを 接続する



キーボードからでているケーブルの端(プラグ)を、パソコン本体の背面にある差込口(コネクタ)に接続します。コネクタにプラグを差し込むときは、決まった方向があります。

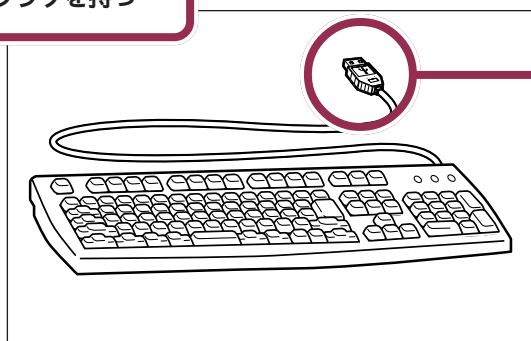
用語

キーボード

パソコンで文字や数字を書くための道具です。キーボード一面に並んでいる押しボタンのことを「キー」と呼びます。いまはまだ、それぞれのキーの意味や働きについて気にする必要はありません。

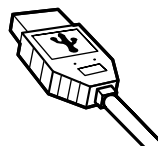
1

プラグを持つ



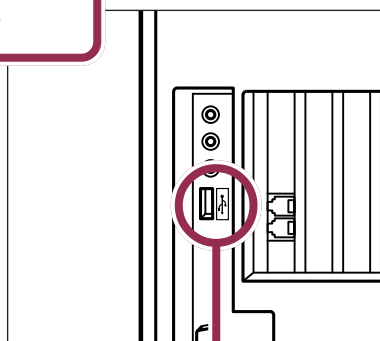
2

絵の見えるほうが右になるようにする



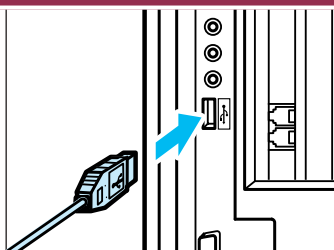
3

本体背面を見る



4

の付いたコネクタにプラグを差し込む



の付いた面を右側にして差し込む

前面のコネクタにも接続できる

キーボードを接続するコネクタは、パソコン本体の前面(右下)にもあります。こちらのコネクタも、同じように利用できます。

参照

パソコン本体前面のコネクタの位置
→『リファレンス』付録「本体の各部の名称(モニタータイプ)」

チェック!

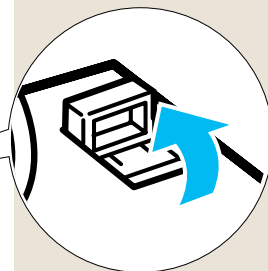
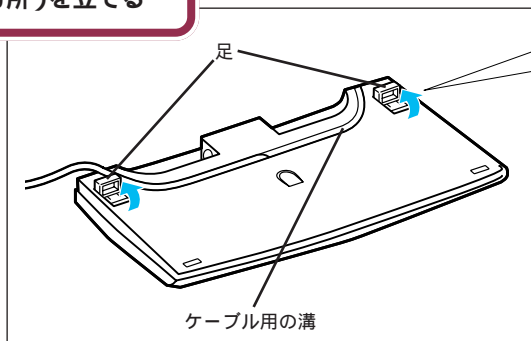
キーボードのプラグは、力を入れて無理に差し込まないでください。力を入れなくてもスムーズに差し込みます。うまくいかないときは、もう一度プラグの方向(左右の向き)を確認してください。

キーボードの足を立てる

キーボードの足を立てると、キーボードをしっかり安定するだけでなく、長時間キーを打っても、疲れにくくなります。

1

キーボードを裏返し、
足(2カ所)を立てる



キーボードは足を立てずに使用することもできます。その場合、キーボードのケーブルを「ケーブル用の溝」に押し込むと、安定します。

マウスを接続する



キーボードの裏側にマウスを接続します。今度も、プラグの向きに注意して接続してください。

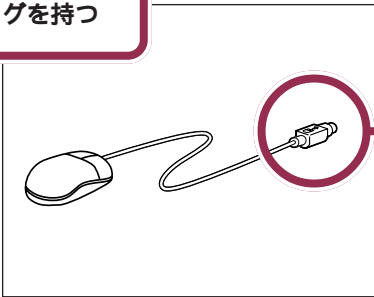
用語

マウス

パソコンを操作するための道具です。パソコンの画面に出てくるボタンを押したりするときに使います。机の上で動かして使う小さな道具で、ケーブルがしっぽのように見えるところから、マウス(ねずみ)と呼ばれます。

1

プラグを持つ



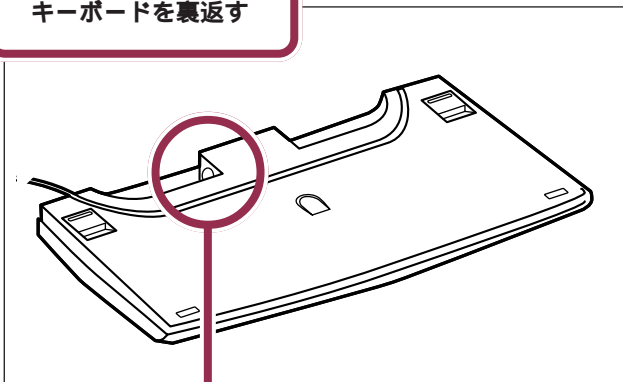
2

矢印の見えるほうか上になるようにする



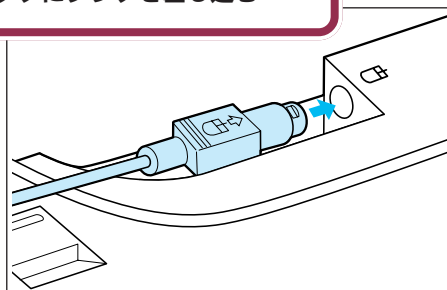
3

キーボードを裏返す



4

キーボード裏側のマウスの付いたコネクタにプラグを差し込む



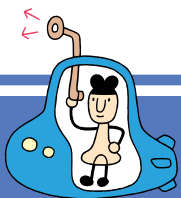
チェック!!

キーボード裏側のコネクタは、添付のマウスまたは別売のマウス(PK-KB003)専用です。他の機器を接続することはできません。

チェック!!

マウスのプラグは、力を入れて無理に差し込まないでください。力を入れなくてもスムーズに差し込めます。うまくいかないときは、もう一度プラグの方向(上下の向き)を確認してください。

ディスプレイを 接続する



ディスプレイの背面から出ているケーブルのプラグを、パソコン本体背面のコネクタに差し込み、ねじのつまみをしめて固定します。

用語

ディスプレイ

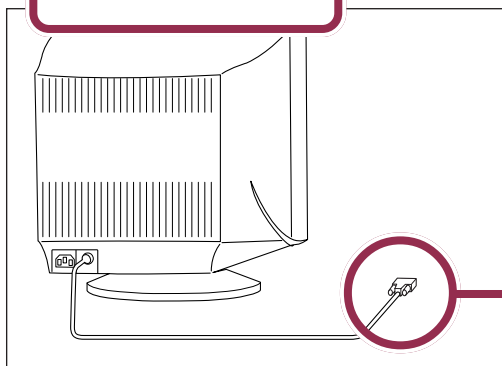
パソコンの画面を表示する道具です。「モニター」や「CRT ディスプレイ」と呼ばれることもあります。テレビのような形をしていますが、絵や文字を表示するための信号はパソコンから受け取っているため、ディスプレイだけでは何も見ることはできません。

チェック!!

ディスプレイなしモデルの場合、ディスプレイを別途用意してください。ディスプレイによっては、左の図と違っていることがあります。その場合、ディスプレイに付属の取扱説明書をご覧ください。

1

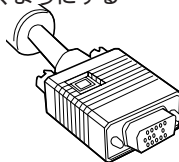
プラグを持つ



2

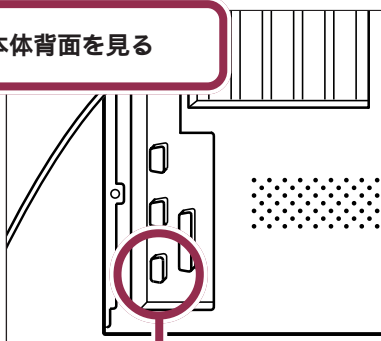
差し込むときにプラグの 向きを確かめる

台形の金具の長い辺が右を
向くようにする



3

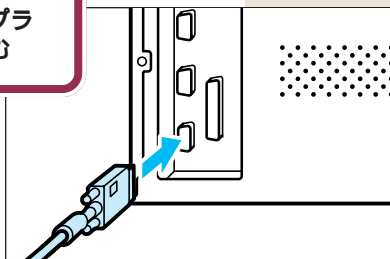
本体背面を見る



4

の付いたコネクタに、プラグを奥までしっかり差し込む

台形の金具の長い辺が右側になるように差し込む

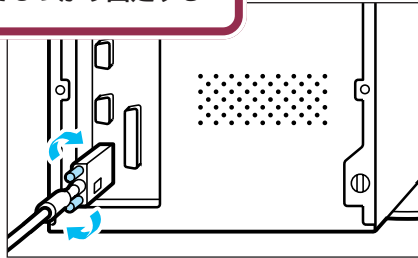


チェック!!

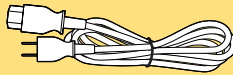
プラグがうまく差し込めないときは、もう一度プラグの方向(左右の向き)を確認してください。力まかせに押し込むと、コネクタを壊してしまうおそれがあります。

5

ねじのつまみを指で右へ回し、止まるまでしっかり固定する



ディスプレイ用電源ケーブルは、まだ接続しないでください。マイクロホンや電話回線などを先に接続する必要があります。



ディスプレイ用電源ケーブルを接続するには、このマニュアルの「ディスプレイ用電源ケーブルを接続する」(P.36)をご覧ください。

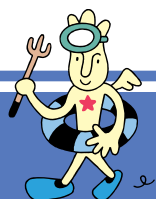
✓ **チェック!!**

ディスプレイのプラグは、奥までしっかり差し込んでください。差し込み方が浅い場合、うまくネジ止めできないことがあります。

✓ **チェック!!**

プラグのネジは、左右均等に力を加えながら締めてください。片方だけ締めると、接続不良になることがあります。

マイクロホンを 接続する



マイクスタンドを組み立てて、マイクロホンをセットします。それからマイクロホンのプラグをパソコン本体背面のコネクタに差し込みます。

用語

マイクロホン

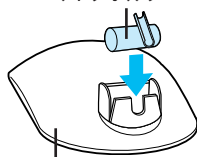
パソコンに自分の音声を送る道具です。インターネットでカラオケを楽しむときや、このパソコンを電話代わりに使うときなどに、このマイクロホンを使用します。

マイクスタンドを組み立てる

1

マイクホルダーを、パチンと音がするまで、マイクスタンドに押し込む

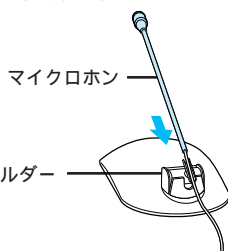
マイクホルダー



マイクスタンド

2

マイクロホンをマイクホルダーに差し込む



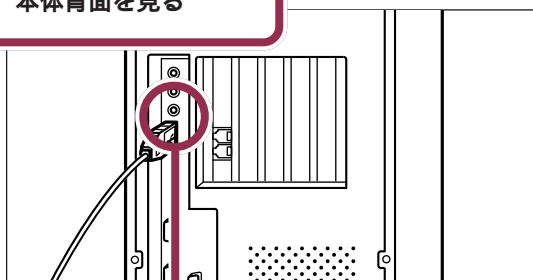
マイクロホン

マイクホルダー

パソコン本体にマイクロホンを接続する

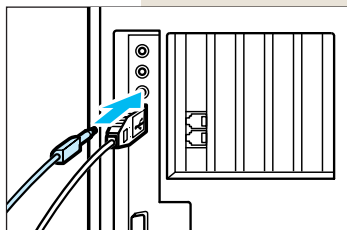
1

本体背面を見る



2

の付いたコネクタに
マイクロホンのプラグを
差し込む



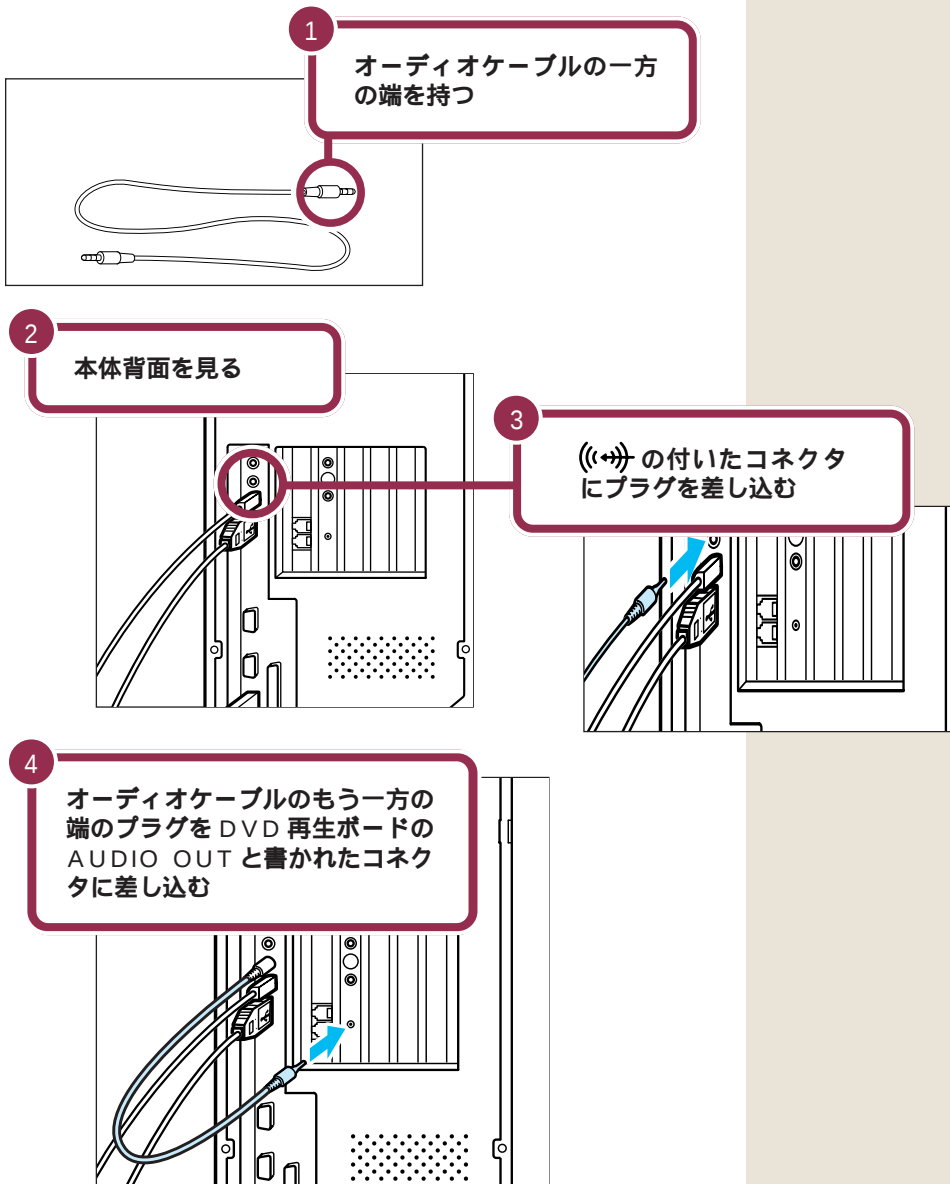


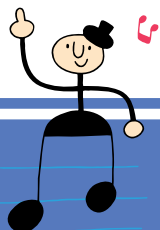
オーディオケーブルを接続する (DVD-ROM モデルのみ)

本体背面の LINE IN 入力端子と DVD 再生ボードの AUDIO-OUT 端子を、添付のオーディオケーブルで接続します。

✓ チェック!!

オーディオケーブルの接続は、DVD-ROM モデルのみ必要です。他のモデルにはオーディオケーブルは添付されていません。





スピーカシステムを 接続する

スピーカから出ているケーブルの端(プラグ)を、サブウーファの背面にある端子に接続します。その後、サブウーファとパソコン本体の背面にあるスピーカ端子を接続します。



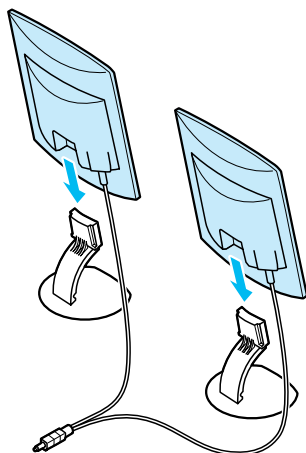
スピーカシステム

パソコンから音を出すための機器です。パソコンが鳴らす注意・警告音は、スピーカシステムから出ます。また、ゲームを楽しむときなどにも使います。

フラットパネルスピーカを組み立てる

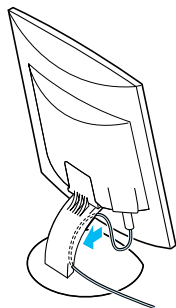
1

左右のフラットパネルスピーカのジョイント部に
スタンドをはめ込む



2

スタンドのアーム部の内側にあるミゾにケーブル
をはめ込む

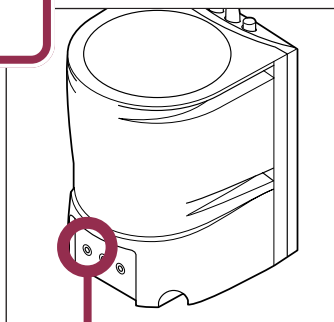


- ・カチッと音がするまでしっかりと
はめ込んでください。
- ・スピーカの前面パネルにはさわら
ないでください。

フラットパネルスピーカをサブウーファに接続する

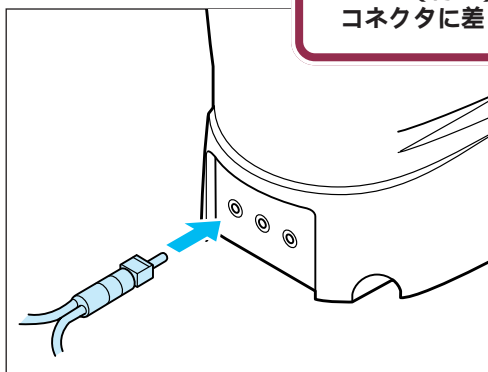
1

サブウーファの背面を見る

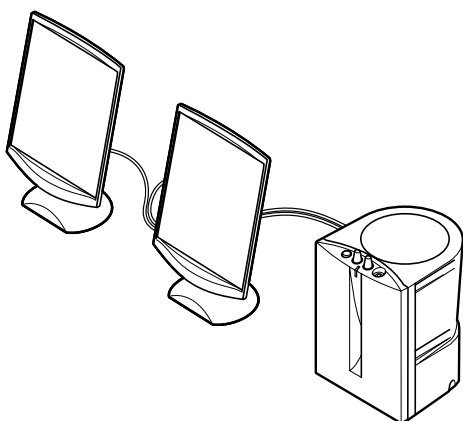


2

フラットパネルスピーカの
プラグ(青色)をの付いた
コネクタに差し込む



ここまでの接続が終わるとフラットパネルスピーカとサブウーファは次のように接続されます。



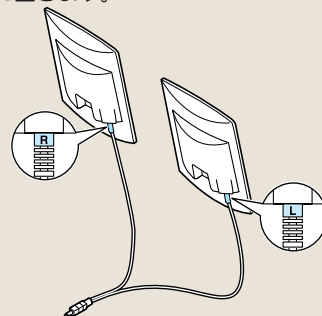
用語

ウーファ

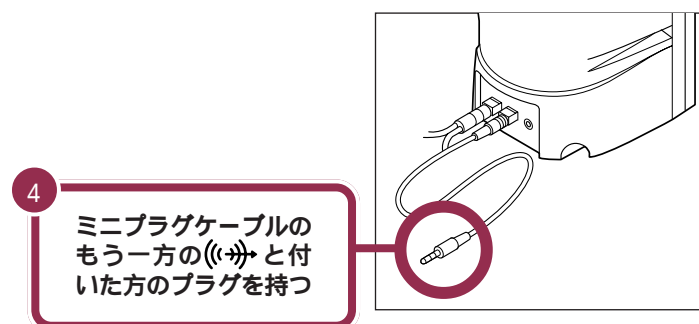
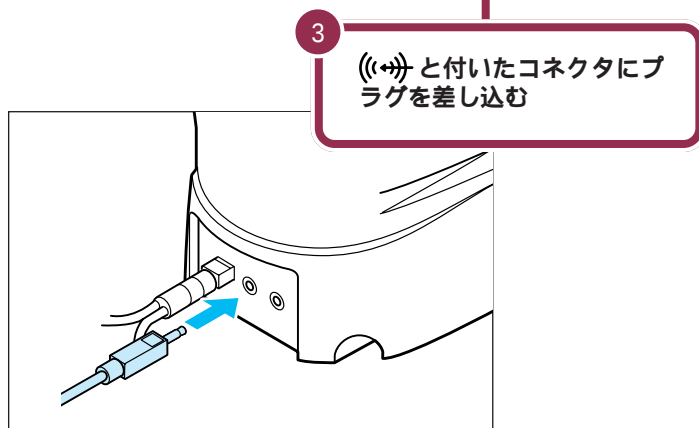
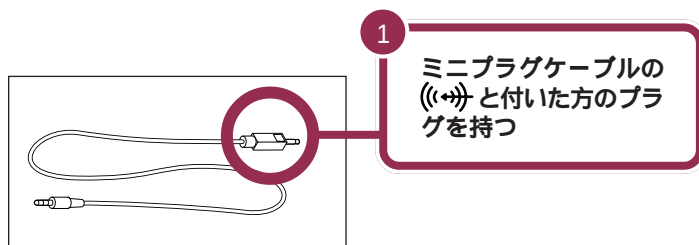
ウーファもスピーカの種類です。
音楽やゲームの効果音の迫力ある
低音再生が得意です。

チェック!!

フラットパネルスピーカのケーブルの根元(パネル側)に「R」と書かれた方を右側に、「L」と書かれた方を左側に置きます。

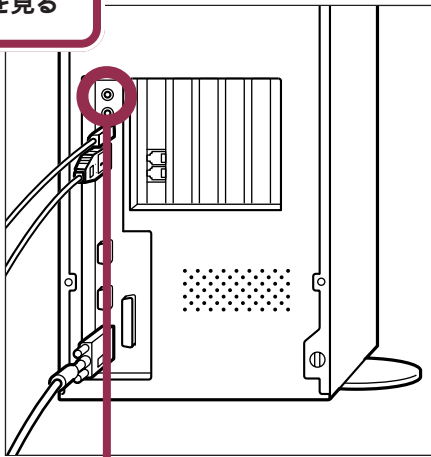


サブウーファをパソコン本体に接続する



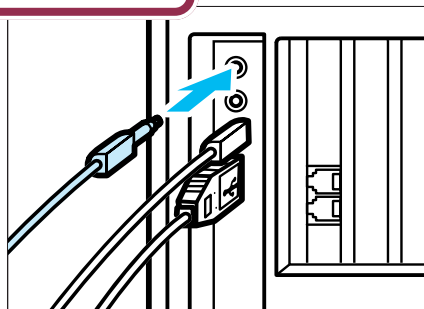
5

本体背面を見る



6

《⦿》と付いたコネクタにプラグを差し込む

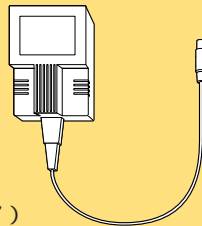


✓ **チェック!!**

本体背面の《⦿》の付いたコネクタには、このパソコンに添付のスピーカシステム以外は接続しないでください。

スピーカシステムの AC アダプタは、まだ接続しないでください。マイクロホンや電話回線などを先に接続する必要があります。

フラットパネルスピーカシステムの AC アダプタを接続するには→本書 (p.37)

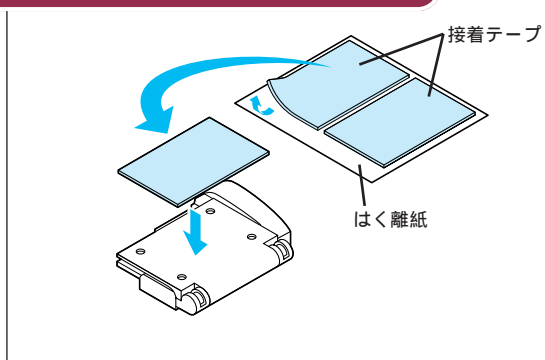


フラットパネルスピーカをディスプレイに取り付ける

フラットパネルスピーカは、接着テープを使ってディスプレイに取り付けることもできます。

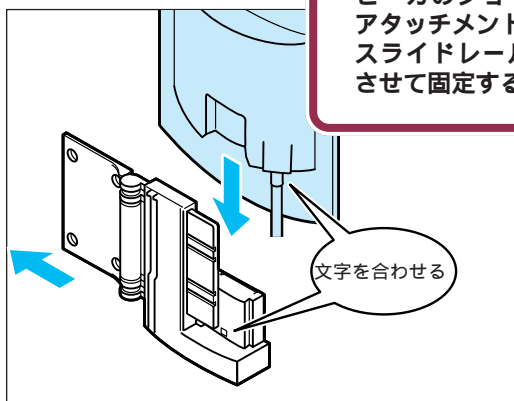
1

接着テープをシート(大きなはく離紙)からはがして、アタッチメントに貼る



2

左右のフラットパネルスピーカのジョイント部分にアタッチメントをはめ込み、スライドレールをスライドさせて固定する



✓チェック!!

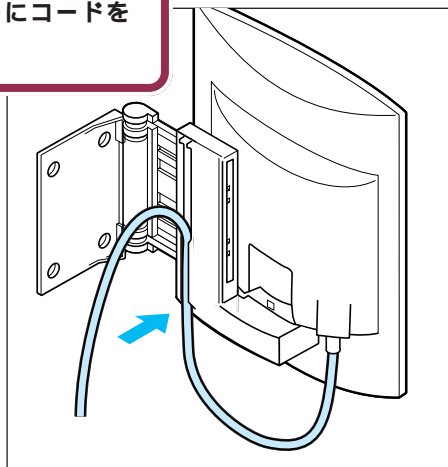
- ・ディスプレイに取り付けたスピーカで大音量を出すと、ディスプレイの画面の一部が揺れることがあります。このときは、ボリュームを下げてください。
- ・ディスプレイに取り付けたアタッチメントからフラットパネルスピーカを取り外すときは、接着テープがはがれないように、アタッチメントを手で押さえてください。

✓チェック!!

- ・スピーカのケーブルの根元とアタッチメントのジョイント部にある文字が同じもの(LとL、RとR)を合わせてください。
- ・カチッと音がするまでしっかりとはめ込んでください。
- ・スピーカの前面パネルにはさわらないでください。

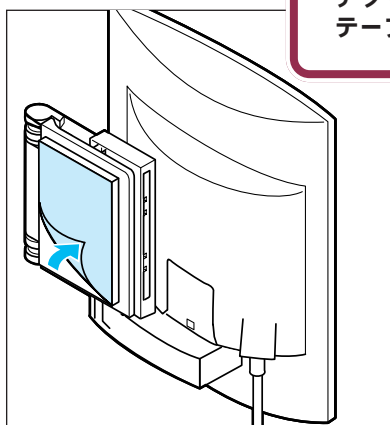
3

アタッチメントにコードを取り付ける



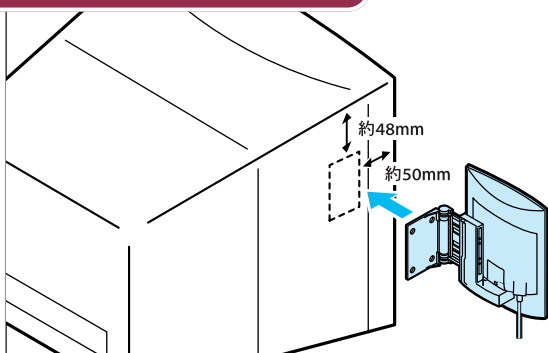
4

アタッチメントに貼った接着テープの保護シートをはがす



5

アタッチメントを開いて持ち、ディスプレイに取り付ける



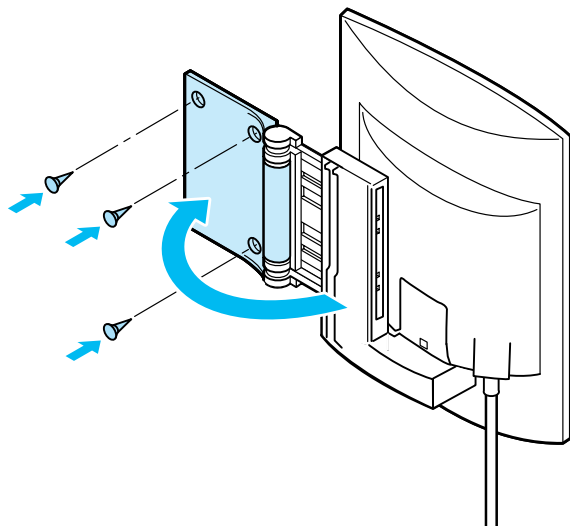
✓チェック!!

- ・フラットパネルスピーカのケーブルの根元に「R」とかかれた方を右側に、「L」とかかれた方を左側に貼り付けます。
- ・通風孔などをふさがない位置に貼り付けてください。
- ・ディスプレイの貼り付ける位置が汚れているときは、汚れをふきとってください。
- ・貼り付ける際、アタッチメントの貼り付け面をディスプレイに押しつけ、接着テープをディスプレイに密着させてください。
- ・貼り付けてから2～3時間ははがれやすいので、フラットパネルスピーカに力を加えないようにしてください。

フラットパネルスピーカは折りたたむことができます。使わないときは折りたたんでおくとじゃまになりません。

フラットパネルスピーカを壁に取り付ける

フラットパネルスピーカはアタッチメントを壁にネジなどで取り付けることもできます。

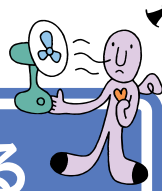


ネジはこのパソコンには添付されていません。別途購入が必要です。

✓チェック!!

接着テープを使って壁に取り付けないでください。

電話回線に接続する



インターネットを利用する場合や、このパソコンでFAXを送ったり電話機能を使ったりする場合には、電話回線に接続する必要があります。最初に、いまお使いの電話機を取り外してからパソコンにつなぎ換えます。次に、パソコンを直接電話回線に接続します。この操作を行っても、電話機はいままで通り使えます。

インターネットやパソコンを使ったFAXの送受信などを利用しない場合、電話回線に接続する必要はありません。

⚠ 注意



感電注意

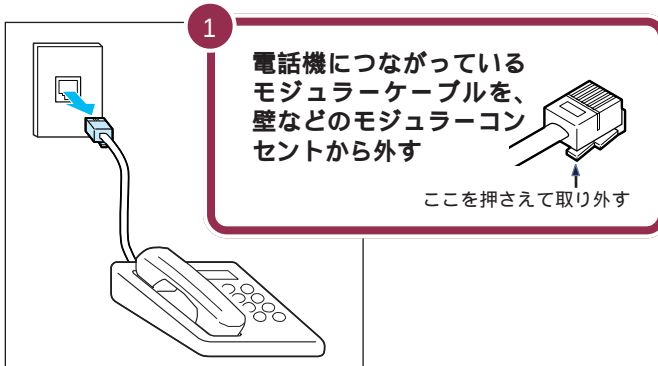
モジュラーケーブル(電話線)の取り外しや接続を行うときは、プラグの端子部分に触れないでください。感電の原因となります。

モジュラーケーブルを確認する

モジュラーケーブルは2本使用します。1本は、このパソコンに添付されています。



もう1本は、現在ご使用の電話機に取り付けられているモジュラーケーブルを使用します。



モジュラーケーブル(電話線)のプラグには、上下のどちらかにツメが付いています。このツメを指でつまんで押さえるようにすると、簡単に抜くことができます。

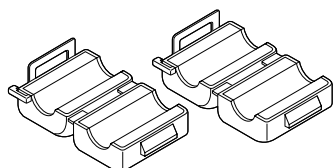
✓ チェック!!

電話機のモジュラーケーブルを取り外すと、パソコンを電話回線に接続するまでの間は使用できなくなります。

モジュラーケーブルにノイズ除去用部品を取り付ける

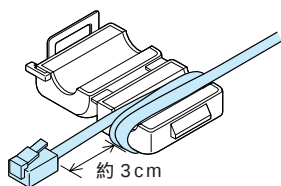
1

ノイズ除去用部品を確認する



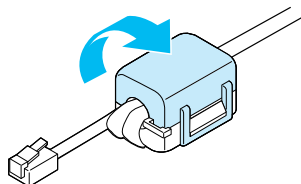
2

添付のモジュラーケーブルをノイズ除去用部品のくぼみに2回巻き付ける



3

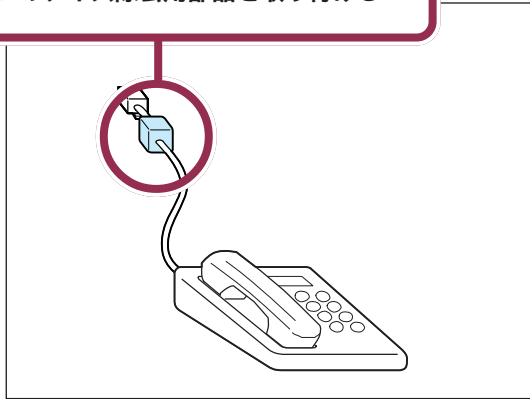
ケーブルをはさまないようにして、ノイズ除去用部品のフタを「カチッ」と音がするまで閉じる



ノイズ除去用部品は、モジュラーケーブルの端から、約3cmのところにに取り付けてください。

4

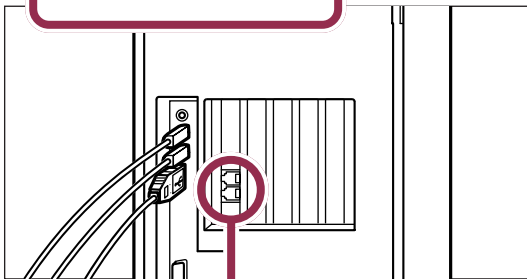
同じようにして、電話機のモジュラーケーブルに、もうひとつのノイズ除去用部品を取り付ける



電話機をパソコンにつなぐ

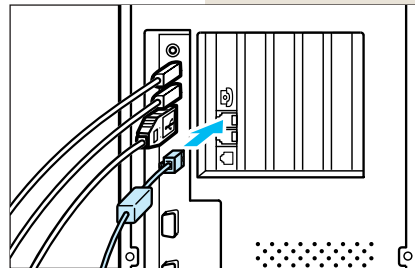
1

本体背面を見る

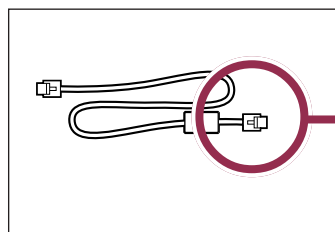


2

電話機のモジュラーケーブルのプラグを、向きに気をつけて、☎の付いたコネクタに差し込む



パソコンを電話回線につなぐ



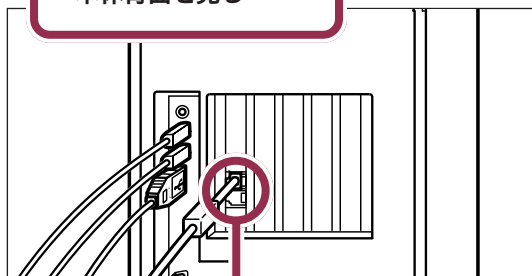
1

モジュラーケーブル(このパソコンに添付のもの)のプラグを持つ

ノイズ除去用部品を取り付けた側のプラグを持ってください。

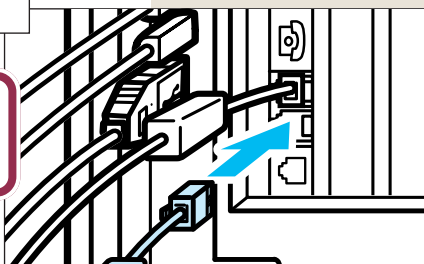
2

本体背面を見る



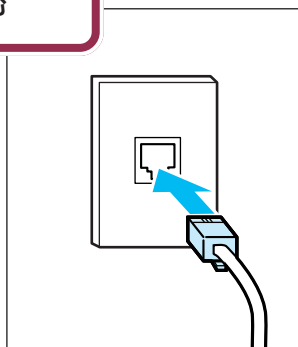
3

プラグの向きに気をつけて、の付いたコネクタに差し込む



4

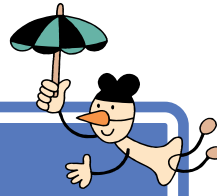
もう一方のプラグを壁などのモジュラーコンセントに差し込む



パソコンを電話回線に接続すると、電話機はこれまで通り使うことができます。パソコンの電源が入っていてもいなくても関係ありません。

✓チェック!!

パソコンと電話回線をつなぐモジュラーケーブルや、電話機とパソコンをつなぐモジュラーケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。うまく配線できないときは、お近くの電話工事店やパソコンのご購入元などにご相談ください。



アースを接続する

パソコン本体の背面にあるアース端子のネジをゆるめて、アース端子を取り付けます。それからコンセントのアース端子に接続します。

⚠ 注意



発火注意

アース線は、絶対にガス管につながないでください。
火災の原因になります。



感電注意

アース線の接続や取り外しを行うときは、必ず本体および周辺機器の電源ケーブルをコンセントから抜いてください。

感電の原因になります。



用語

アース線

感電を防止するための電線です。パソコンのアース端子と、コンセントのアース端子をつなぐことで、万一漏電した場合の感電を防止する役目を果たします。安全のために必ず接続してください。

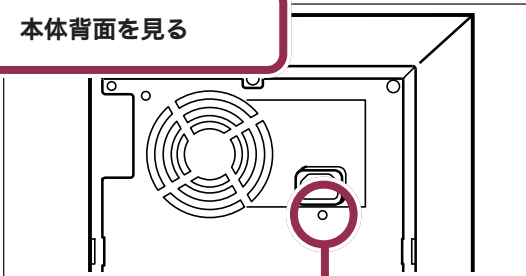


アース線(緑色の電線です。)

ドライバーはネジに合ったものをお使いください。合わないドライバーを使って無理にネジを回すと、ネジが壊れることがあります。

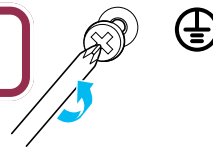
1

本体背面を見る



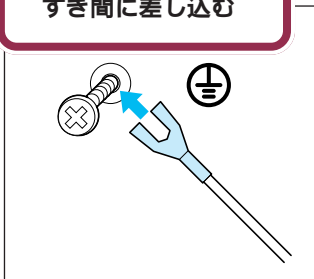
2

⚡の付いたネジをゆるめる



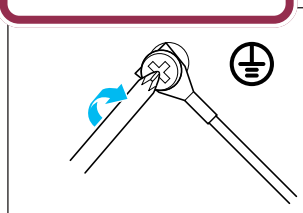
3

アース線の端子を
すき間に差し込む



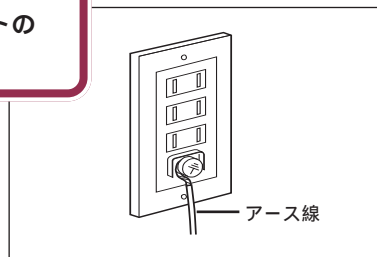
4

ネジをしめる



5

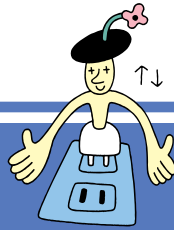
アース線をコンセントの
アース端子に接続する



✓ **チェック!!**

- ・ アース線は水道管につながないでください。アースできない場合があります。
- ・ アース線は、電話専用のアース端子に接続しないでください。電話に雑音が入る場合があります。
- ・ アース端子付きのコンセントが利用できない場合には、お近くの電気店など電気工事士の資格を持つ人にアース端子付きコンセントの取り付けをご相談ください。

電源ケーブルを 接続する



添付品の接続が終わったら、電源ケーブルを接続しましょう。最初にディスプレイの電源ケーブルとサブウーファのACアダプタを接続し、最後にパソコン本体の電源ケーブルを接続します。

⚠ 注意



感電注意

濡れた手で電源ケーブルのプラグを抜き差ししないでください。

感電の原因になります。



発火注意

タコ足配線にしないでください。

タコ足配線にすると、コンセントが過熱し、火災の原因になります。



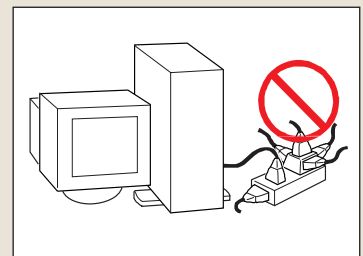
感電注意

電源ケーブルの上には、絶対に重いものをのせないでください。



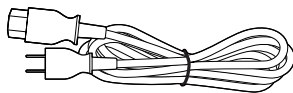
発火注意

ケーブルに傷がついて、感電や火災の原因になります。



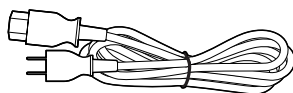
電源ケーブルを確認する

ディスプレイ用電源ケーブルは、ディスプレイの箱に入っていたものをお使いください。



ディスプレイ用電源ケーブル(グレーのケーブル)

パソコン本体用電源ケーブルは、パソコンに添付のものをお使いください。



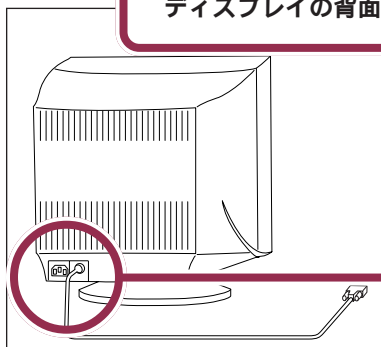
パソコン本体用電源ケーブル(黒色のケーブル)

別売のディスプレイをお使いの場合は、ケーブルの色が異なる場合があります。

ディスプレイ用電源ケーブルを接続する

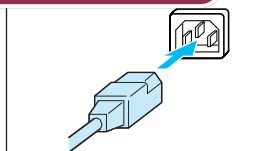
1

ディスプレイの背面を見る



2

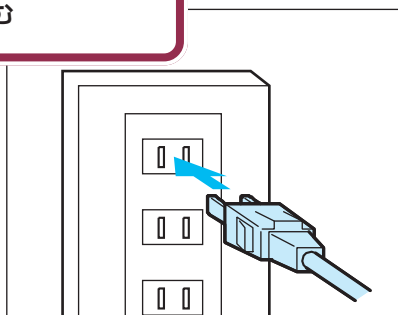
ディスプレイ用電源ケーブル
(グレー)の片方の端を、奥まで
しっかり差し込む



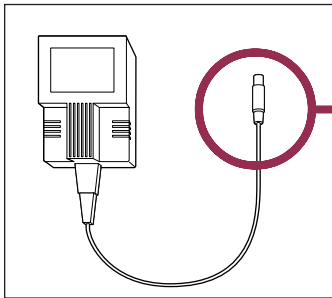
ディスプレイ用電源ケーブルは、
ディスプレイと一緒に箱に入ってい
たものをお使いください。

3

電源ケーブルのプラグを壁などの
コンセントに差し込む



フラットパネルスピーカシステムの AC アダプタを接続する

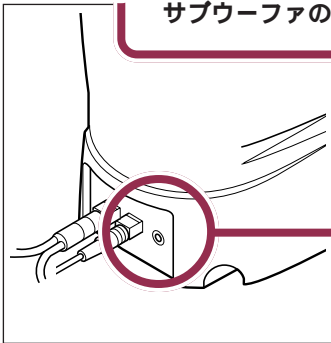


1

ACアダプタのプラグを持つ

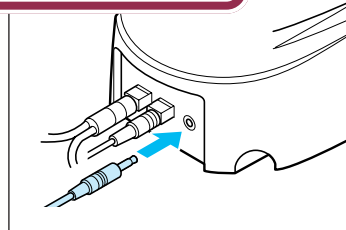
2

サブウーファの背面を見る



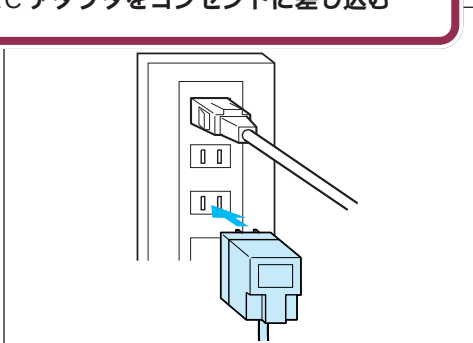
3

電池の付いたコネクタに AC アダプタのプラグを差し込む



4

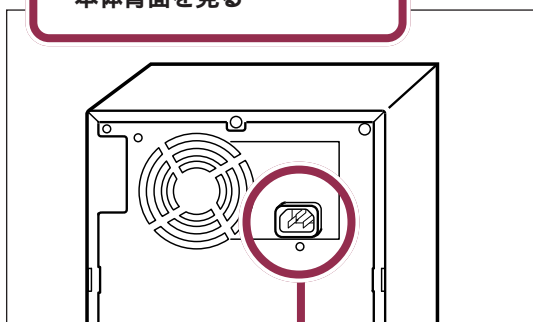
AC アダプタをコンセントに差し込む



パソコン本体の電源ケーブルを接続する

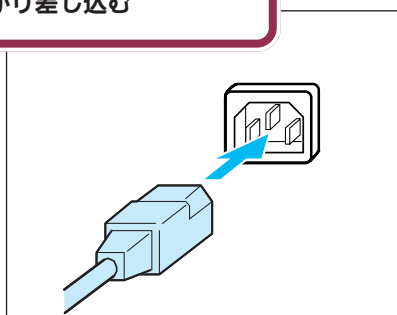
1

本体背面を見る



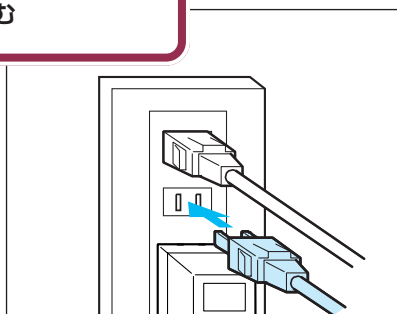
2

電源ケーブル(黒)の片方の端を、奥までしっかり差し込む



3

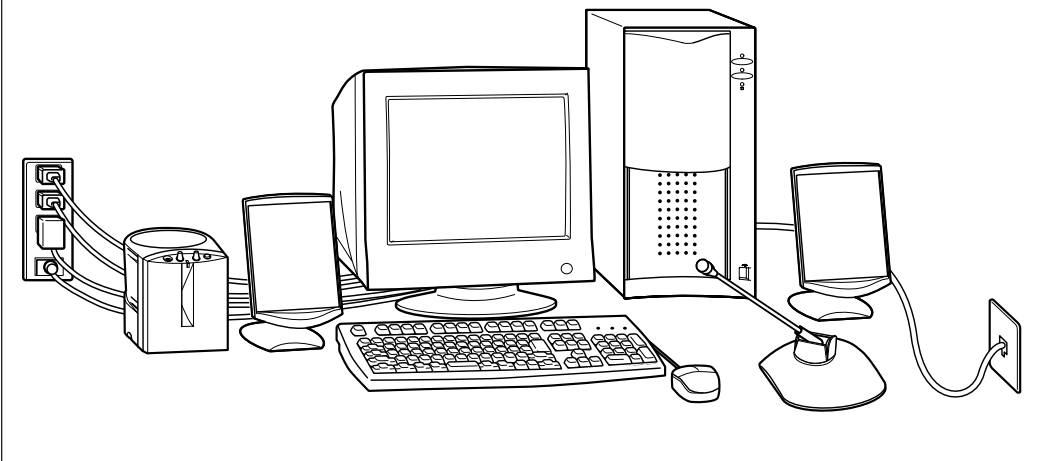
電源ケーブルのプラグを壁などのコンセントに差し込む



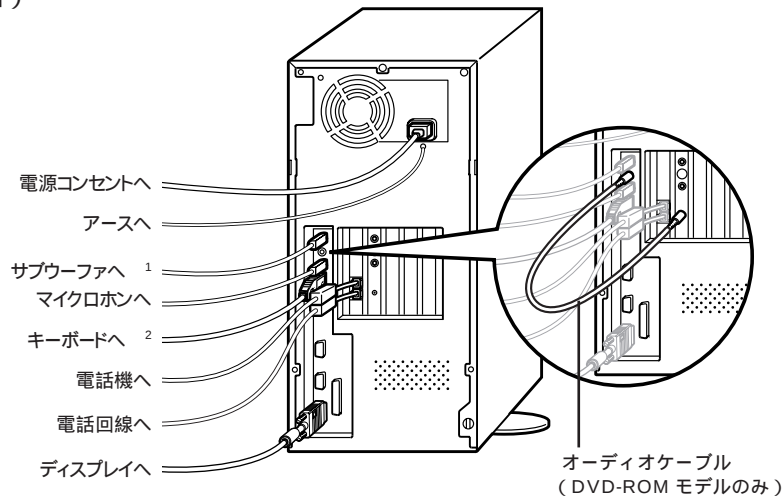
これで接続は完了です。

電源ケーブルは、パソコン本体の添付品収納箱に入っていたものをお使いください。

接続完成図(前面)



接続完成図(背面)



¹ スピーカはサブウーファに接続

² マウスはキーボードに接続

まだ、電源スイッチを押さないでください。電源スイッチを入れる操作については、このあとのPART 3「電源を入れてパソコンを使えるようにする」で説明しています。

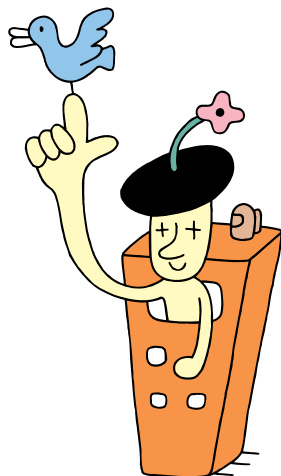
チェック!!

電源ケーブル、電話回線の接続に使ったモジュラーケーブルなどが、人の通る場所がないことを再確認してください。ケーブルを足に引っかけたりすると、パソコンの故障の原因になるだけでなく、思わぬけがをすることもあります。

3

電源を入れて パソコンを使えるようにする

パソコンの接続は終わっていますね。それでは、
いよいよ電源を入れます。最初に電源を入れる
ときは、自分の名前などを登録するセットアッ
プ作業が必要です。この作業が終わらないと、パ
ソコンは使えるようになりません。このあとの
説明をよく読んで、ゆっくり確実に操作してく
ださい。



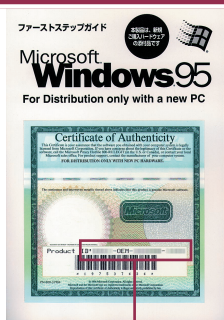
電源を入れる



ディスプレイ、パソコンの順に電源スイッチを押していきます。電源を入れてから、パソコンをできるようにするための準備が完了するまで、約 30 分程度かかります。

1

添付の『Microsoft Windows 95 ファーストステップガイド』で Product ID を調べて、このマニュアルの 51 ページの記入欄にメモしておく



Product ID

2

パソコンのユーザー名を決めて、48 ページの記入欄にローマ字でメモしておく

3

ディスプレイの電源スイッチを押す



ディスプレイの電源ランプが点灯する

Product ID を調べる

『Microsoft Windows 95 ファーストステップガイド』は、このあとの手順で、Windows の Product ID をパソコンに登録するときに必要なになります。添付品収納箱の中から、CD-ROM と本と一緒にビニールに包まれているものを探してください（この包みは、そのまま大切にしておきます）。

用語

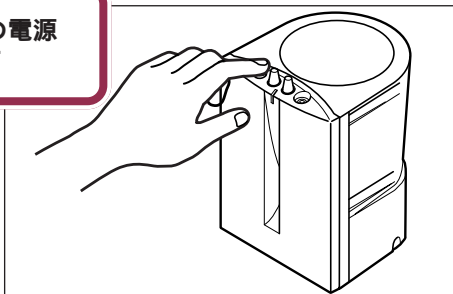
Product ID

「プロダクトアイディ」と読みます。パソコンに登録しておくための識別番号のようなもので、1 台ごとに別の番号が割り振られます。

ユーザー名について

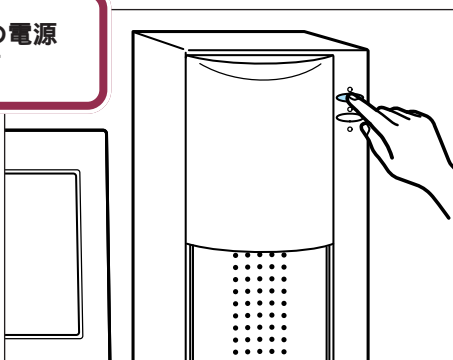
このあとの手順で、キーボードを使って名前を打ち込む必要があります。そのときに迷わないように、い前から決めておきましょう。通常は、ユーザー名とは、あなたの名前のことです。このパソコンを複数のかたが使う場合は、代表になる人の名前が良いでしょう。

4

サブウーファの電源
スイッチを押す

サブウーファの電源ランプが点灯する

5

パソコン本体の電源
スイッチを押す

電源スイッチの上の電源ランプが点灯する

操作の途中で電源を切らない!!

この PART の操作がすべて終わるまでに、約 30 分かかります。p.57 の手順が完了するまでは、絶対にパソコン本体の電源スイッチを押さないでください。もちろん、電源ケーブルをいきなり抜いたりしてはいけません。パソコンが使えるようになる前に電源を切ると、故障の原因になります。

6

次の画面が表示されるのを待つ

この度は当社のパーソナルコンピュータをお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

Windows95 セットアップでは、次のものが必要となりますので用意しておいてください。

- ・『STEP1 接続と準備』マニュアル(PART3 『電源を入れてパソコンを使えるようにする』の部分に従ってセットアップしてください)
- ・使用する人の名前(ユーザ情報として名前を登録します)
- ・『Windows95 フォーステップガイド』マニュアル(表紙に記載されている Product ID を登録します)

< 注意 >

Windows95 セットアップには約 30 分かかります。セットアップが完了し Windows95 が起動するまで、絶対に電源を OFF にしたりしないでください。Enter キーを押すと、Windows95 セットアップを開始します。

最初の30秒ぐらいは、パソコンが自動的に内部をチェックするので、画面の表示がいろいろ変化します。左の画面が出るまで、何もせずに待ってください。

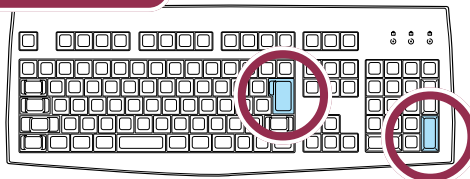
用語

セットアップ

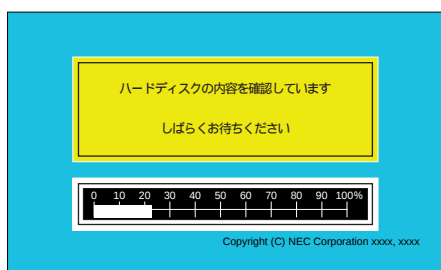
パソコンを使えるようにすることを、セットアップといいます。セットアップが終わると、ワープロ、表計算、ゲーム、インターネットなど、このパソコンの様々な機能が使えるようになります。

7

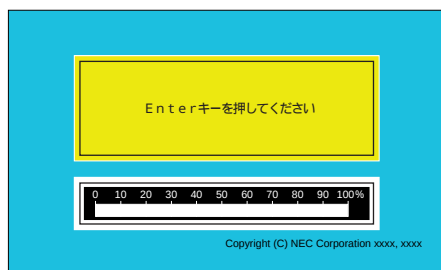
キーボードの  を押す



このような画面が
1分ほど出たあと、



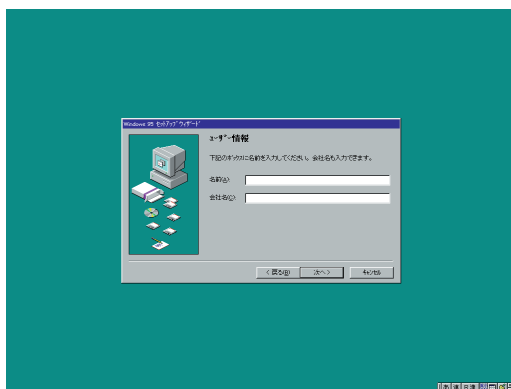
この画面に変わる



8

キーボードの  を押す

約1分ほどで、
この画面に変わる



左の図のように【Enter】は、2カ所にあります。どちらのキーを押しても構いません。

用語 



(Enter キー)

キーボードのキーの中で、一番よく使うキーです。「エンターキー」と読みます。エンター(Enter)とは、「入れる」という意味。「次に進め」という命令をパソコンに入れるときに押すものが、Enter キーだと思ってください。

左の画面が出るまで、途中で、何度か画面の表示が変化することがありますが、故障ではありません。電源を切ったり、電源ケーブルをコンセントから引き抜いたりしないでください。

名前を打ち込む



このパソコンをあなたのパソコンとして登録します。それには、画面の中の決められた欄に、ローマ字で名前を打ち込みます。でも、その前にマウスに触れてみましょう。

マウスを動かしてみる

1

右手でマウスを持つ



2

マウスを前後左右に動かしてみる



ポイント

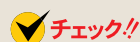
マウスは軽く持って、机の上を滑らすように動かす。
マウスの動きに応じて、画面の矢印が動く。



チェック!!

日本語入力に慣れた方へ

すでにパソコンを使って、日本語入力の操作に慣れているなら、ローマ字で名前を入力する必要はありません。自分の名前を入力して「次へ」をクリックしたら、本書の「WindowsのProduct IDを入れる」(p.50)に進んでください。



チェック!!

マウスの上にある左右のボタンは、まだ押さないでください。

マウスを動かすために、マウスの前後左右に10cm位のスペースをあけておいてください。

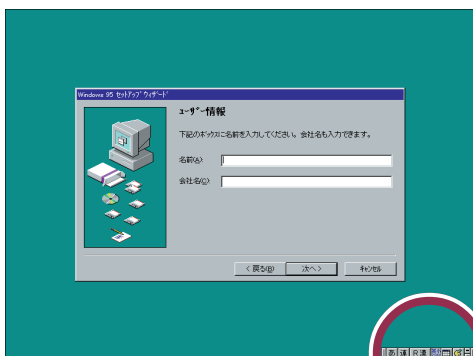
マウスは、親指と薬指で軽くつかんで机の上を滑らせるように動かします。肩の力を抜いて、手首だけで動かすようにすることがコツです。

ローマ字が打てるようにする

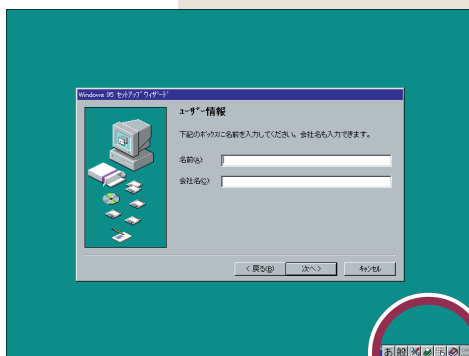
Alt を押したまま、**半角/全角** を押すと、ローマ字(アルファベット)が打てるようになります。

1

画面右下に下の図のような表示があることを確かめる



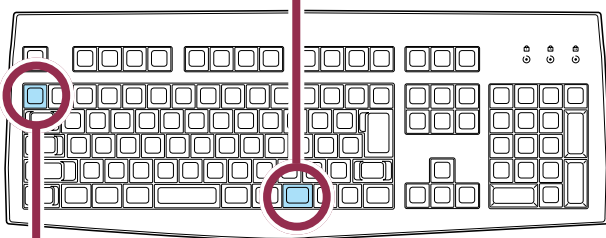
一太郎モデル



Word モデル

2

Alt (オルトキー)を押したまま、



3

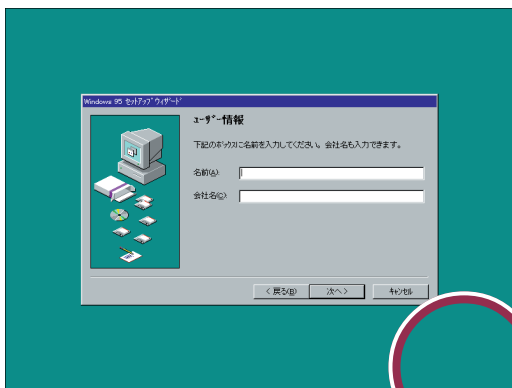
半角/全角 (半角 / 全角キー) を 1 回押す

Alt (オルトキー) は 2 カ所にあります。どちらのキーを押しても同じように使うことができます。

半角/全角 (半角 / 全角キー) は、押し続けないでください。

4

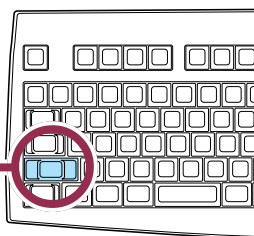
Alt (オルトキー) を離す



画面右下の表示が消える

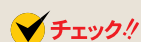
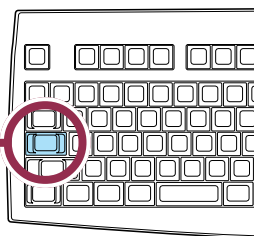
5

⇧Shift (Shift キー) を
押したまま、



6

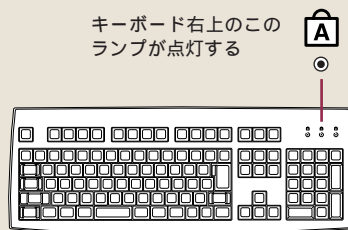
CapsLock
英数 (CapsLock キー)
を 1 回押す



同じ操作が何度も試せる

手順 2 ~ 4 までの操作は、何度でも試すことができます。同じ操作を繰り返すと、画面右下の表示が出たり消えたりします。いちどうまく画面右下の表示が消えなかった場合も、同じ操作を繰り返してみてください。

キーボード右上のこの
ランプが点灯する



⇧Shift を押したまま **CapsLock**
英数 を押すと、アルファベットが小文字から大文字に切り換わります。ここでは大文字で名前を打っていきます。

自分の名前をローマ字で打ち込む

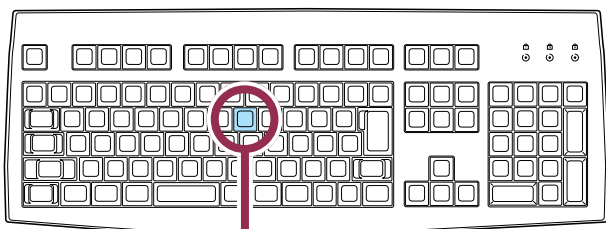
1

下の記入欄でパソコンの使用者名のローマ字つづりを確認する

使用者名記入欄

2

キーボードから最初のアルファベットが書かれたキーを探す



「ICHIROU」の場合なら、「I」のキーはここ
(キーに書かれたひらがなは無視する)

3

その文字キーを押す



同じ文字が続けて打ち込まれたとき (間違った文字が入ったとき)

文字のキーは、押したらすぐに離すことが大切です。キーを押したままにしていると、同じ文字が連続して入ってしまいます。そのときは、右の図のキーを押してください。後ろから文字を消すことができます。文字を間違えて打ったときも、このキーで修正できます。



ポイント

文字を間違えたら、【BackSpace】を押して後ろから消していく。

アルファベットは全部大文字で書いてください。普通は名前、苗字の順番ですが、日本式に苗字、名前の順番でもかまいません。

参照

ローマ字のつづりがわからないときは→本書「付録」 「ローマ字つづり一覧」(p.66)

【BackSpace】



4

同じようにして、自分の名前
をすべて打つ

下記のボックスに名前を入力してください。

名前(A): ICHIROU MITA

「ICHIROU MITA」の場合なら、このようになる

5

自分の名前が入力できたこと
を確認する

苗字と名前の間を空けるときは、下
図のキーを押します。このキーは、空
白(スペース)を空けるときに使
うので【スペース】と呼びます。



個人で使用する場合、会社名の欄に
は何も入れる必要がありません。会
社で購入した場合などは、会社名の
欄の内側までマウスの矢印を移動し
て、そこで左ボタンを一度押します。
次の図のように、会社名の欄の左端
に「|」が点滅するのを確認してくだ
さい。次に **Alt** (オルトキー) を押し
たまま、 **半角/全角** (半角/全角キー) を押し
ます。あとは名前と同じようにアル
ファベットで会社名が打てます。

会社名(C):

「次へ」をクリックする

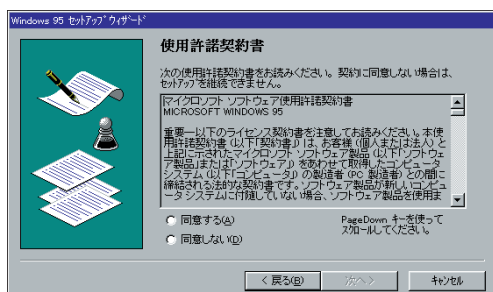
1

「次へ」に矢印を合わせて、マ
ウスの左ボタンを 1 回押す



この四角の内側に矢印
の先端が合っているこ
とに

マウスの左ボタンを押すと、画
面が変わる



用語

クリック

画面の文字や絵などに矢印を合わ
せ、マウスの左ボタンを 1 回押す
操作を「クリック」といいます。「ク
リック」は、マウスを使うときの最
も基本的な操作方法なので、この
あとの手順でも同じ操作が何度も
出てきます。しっかりマスターし
てください。

Windows の Product IDを入れる

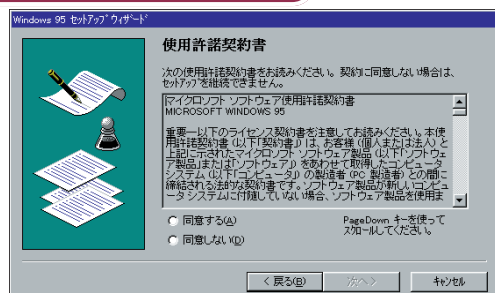


パソコンを使えるようにするための操作を続けましょう。手順説明にしたがって、ゆっくり、確実に操作を進めてください。

使用許諾契約に同意する

1

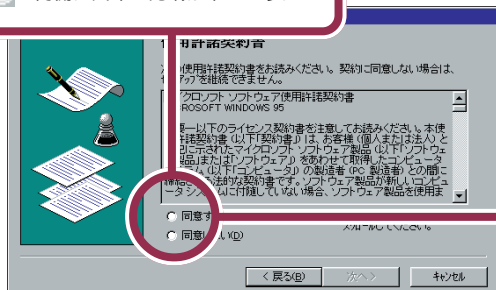
次の画面が表示されている
ことを確認する



2

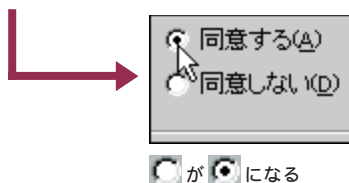
「同意する」の左にある  に
矢印を合わせる

 の内側に矢印の先端が来るように



3

ここで、クリックする
(マウスの左ボタンを1回押す)



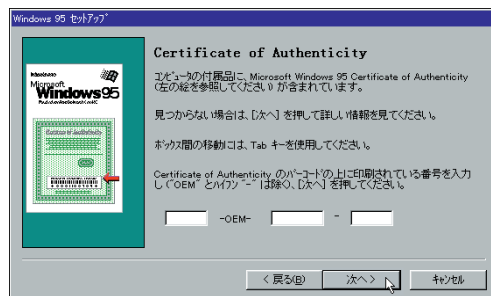
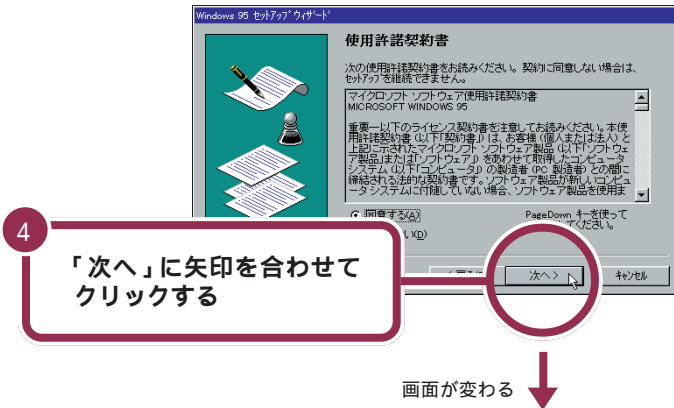
使用許諾契約とは？

このパソコンを使えるようにするには、パソコンに入っているソフトウェアを違法にコピーして他人に渡したりしないという契約に同意しなければなりません。同意していただけない場合は、このパソコンを使うことができません。

契約書の文章が表示された欄の右に  があります。この  の上に矢印を合わせてクリックすると、続きを読むことができます。このように画面の内容を動かして、続きを見ることを「スクロール」と呼びます。

参考

スクロールについて → 『STEP 2 入門』PART 7「ウィンドウの扱いをマスターしよう」



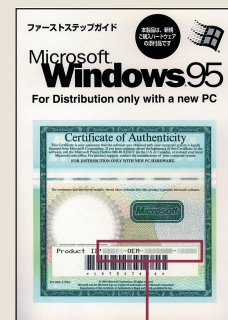
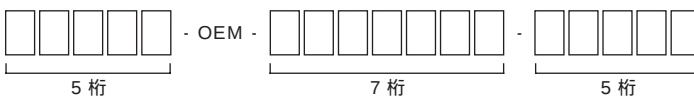
Product ID(プロダクト アイディ)を入れる

- 1 最初の入力欄に「|」が点滅していることを確認する



- 2 Product ID を確認する

Product ID 記入欄

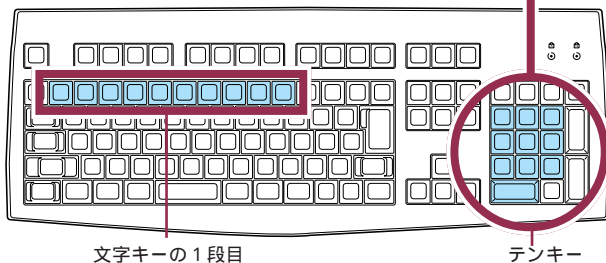


これが Product ID

Product IDに印刷されている **0** の文字は、数字の0(ゼロ)です。

3

Product IDの先頭の数字から打ち込んでいく
(テンキーまたは文字キーの1段目を使う)



文字キーの1段目

テンキー

4

入力が終わったら番号が正しく入力されているか確認する

画面内の Product ID の番号は仮のものです



5

「次へ」に矢印を合わせてクリックする

次ページの最初の画面に変わる

「入力された番号は無効です」と表示されたら

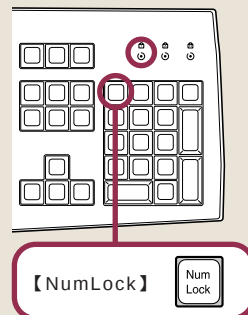
数字を入れ間違えて「次へ」をクリックすると、「入力された Certificate of Authenticity の番号は無効です」という画面が表示されます。「再入力」をクリックすると、再度 Product ID を入れる画面に戻ります。まず、『Microsoft Windows 95 ファーストステップガイド』の表紙を見て、画面に表示されている Product ID の番号が正しいか確認してください。間違っていたら、番号を間違えた欄の右端に矢印の先端を合わせ、クリックします。そのあと【BackSpace】を押して、後ろから数字を消していき、正しい番号を打ち直してから、もう一度「次へ」をクリックしてください。

数字は続けて打つ

画面には 3 つの入力欄がありますが、数字キーを打っていくと、自動的に次の欄に数字が入っていきます。「OEM」や「- (ハイフン)」は、打つ必要がありません。

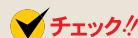
テンキーから数字が入らないときは【NumLock】

間違ってテンキーの左上にある【NumLock】を押してしまうと、キーボードの①の下ランプが消えて、数字が打てなくなってしまいます。①の下ランプが消えているときは、【NumLock】を押し、ランプを点灯してください。



打ち込んだ番号に間違いがあったら

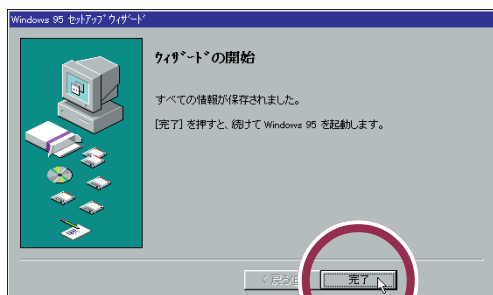
【BackSpace】を押すと、後ろから番号の数字が消えていきます。間違いのあった所まで後ろから消していき、そこから正しい番号を打ち直してください。



0 (ゼロ) と O (オー) に注意!

数字の「0 (ゼロ)」と英文字の「O (オー)」は、よく似ているので注意が必要です。また、数字の「1」と英文字の「l (アイ)」を間違えていないか、どこかに余分なスペース(空き)が入っていないかなどもに注意してください。

残りの手順を最後まで進める



四角の内側に矢印の先端が来るように

1

「完了」をクリックする



ポイント

⌚ (砂時計) が出ているときは、パソコンが内部で処理を行っている。このマークが出ている間は、何も操作せずに待つ。

パソコンの操作はあわてずに！

ここまでにも、【Enter】を押したりマウスをクリックしたあと、画面が次に切り替わるまで、少し時間がかかったことがありました。これは、パソコンの内部で設定などの準備処理が行われているためです。⌚が出ているときは、キーを押したり、マウスのボタンを何度もクリックしたりしないようにしてください。

「完了」をクリックすると、途中で画面が真っ暗になり、自動的に再起動されます。何度か画面が変わり、「ようこそ Microsoft Internet Explorer」の画面が出るまで、約1～2分ほどかかります。何も操作せずに待ってください。

「ようこそ Microsoft Internet Explorer」の画面を閉じる

ここでは、次のように操作して「ようこそ Microsoft Internet Explorer」の画面を閉じてください。

1

「次にログインするときも、このダイアログを表示する」の前の☒をクリックして、☐にする

2

閉じるをクリックする



「ようこそ Microsoft Internet Explorer」の画面は、あとから見ることができます。



参照

「ようこそ Microsoft Internet Explorer」の画面を表示するには→『困ったときのQ&A』PART 1「トラブル解決Q&A」

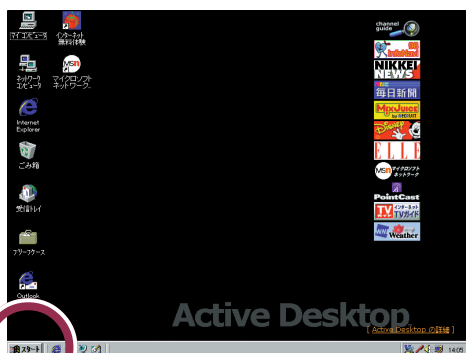


の上にマウスポインタを持ってくるとマウスポインタの形がからに変わります。

ValueStarの 設定を行う



ここでは、パソコンを使えるようにするための、最後の
手順を説明します。



1

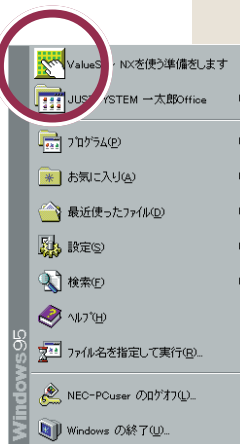
「スタート」をクリックする
(マウスの左ボタンを1回押す)

上の画面が表示されたあとは、このマニュアルで説明された部分以外、クリックしないように注意してください。間違って別の場所をクリックしてしまい、このマニュアルに載っていない画面が表示された場合、次のいずれかの操作を行って、表示された画面を消してください。

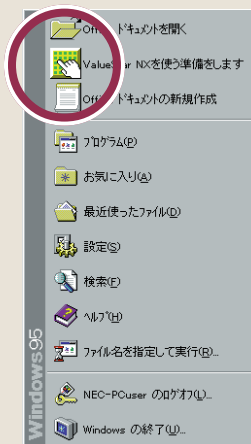
1. キーボードの左上にある【Esc】を押してみる。
2. 「キャンセル」または「いいえ」と書かれたボタンが画面上にあったらマウスでクリックする。
3. 画面の右上に  がある場合、そのボタンをマウスでクリックする。

2

「ValueStar NX を使う準備をします」に矢印を合わせる



一太郎モデルの場合



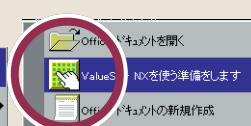
Wordモデルの場合

3

文字の背景が灰色から濃いブルーに変わったところで、クリックする

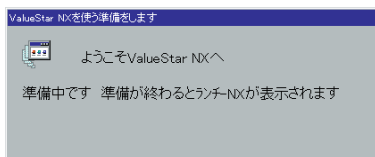


一太郎モデルの場合

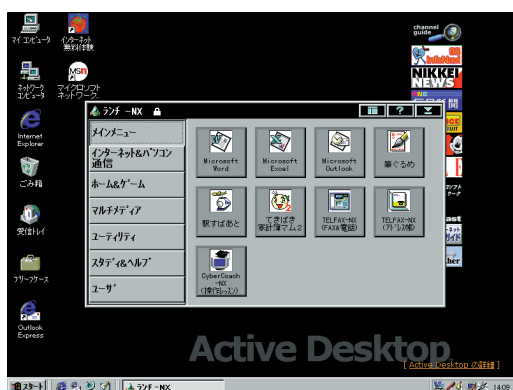


Wordモデルの場合

この画面が出る



しばらくすると、この画面が出る



ランチ-NX

左の画面で中央に表示されているものをランチ-NXといいます。次回から、パソコンの電源を入れたら、1～2分後には、いつもこの画面が表示されるようになります。いろいろなソフト(プログラム)を利用するための基本になる画面です。

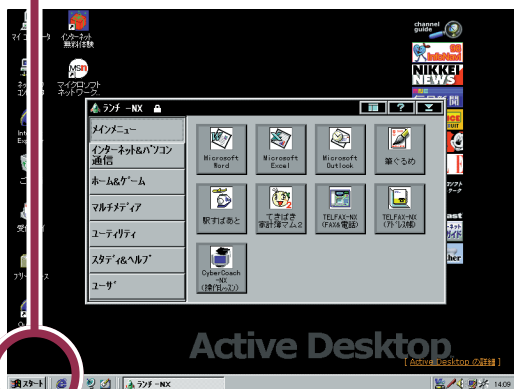
一太郎モデルとWordモデルでは、ランチ-NXのボタンなど、一部の表示が異なります。いまは、違いを気にする必要はありません。

パソコンの電源を切る

パソコンのセットアップ(最初に電源を入れて使えるようにする作業)の最後に、パソコンの電源を切る必要があります。

1

画面左下にある「スタート」をクリックする



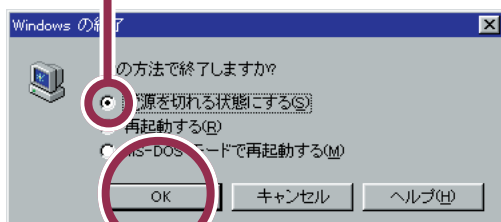
2

「Windows の終了」をクリックする



3

「電源を切れる状態にする」が
●になっていることを確かめる

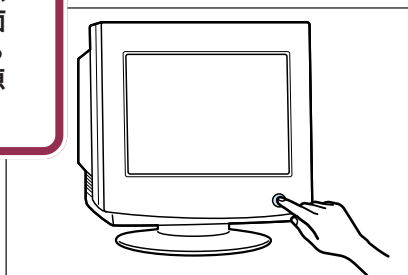


4

「OK」をクリックする

5

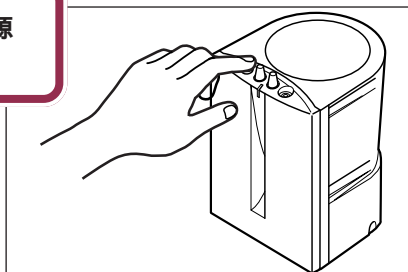
パソコン本体の電源
ランプが消え、画面
が暗くなってから
ディスプレイの電源
スイッチを押す



ディスプレイの電源ランプが消灯する

6

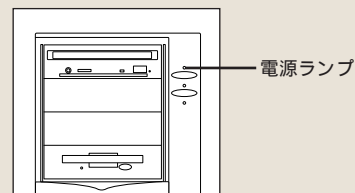
サブウーファの電源
スイッチを押す



サブウーファの電源ランプが消灯する

これでセットアップの作業は完了です。

一瞬「しばらくお待ちください」と表示されたあと、自動的にパソコン本体の電源が切れます。
パソコン本体の電源が切れると電源ランプが消灯します。



パソコン本体の電源が切れると、ディスプレイの画面も消えますが、電源が切れたわけではありません。ディスプレイの電源スイッチを押して、電源を切っておきましょう。

パソコンの電源を入れ直して確認する

パソコンの電源を入れ直して、正常に動くことを確認しておきましょう。

1

ディスプレイの電源スイッチを押す

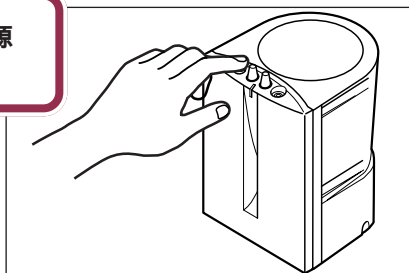


2

ディスプレイの電源ランプが点灯したのを確かめる

3

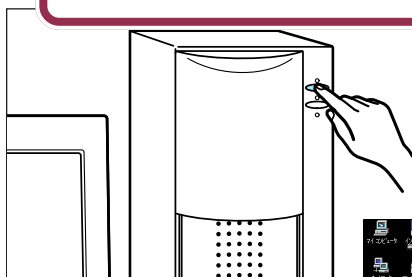
サブウーファの電源スイッチを押す



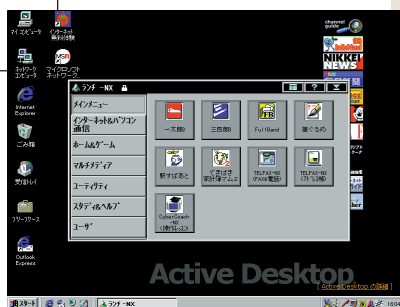
サブウーファの電源ランプが点灯する

4

パソコン本体の電源スイッチ(上側のスイッチ)を押す



1～2分後にランチ-NXの画面が出る



NECのマークやWindowsのマークなどが出たあと、約1～2分で上図の画面が表示されれば、正しくセットアップが行われています。

20 分以上放置すると、画面が真っ暗になる

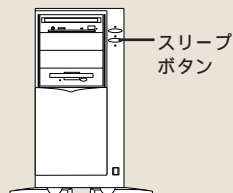
キーボードのキーに何も触れなかったり、マウスを動かさなかったりする状態が 20 分以上続くと、自動的に画面が真っ暗になります。これはディスプレイをつけたままにして無駄な電力を使わないように、省電力機能が働くためです。この場合、電源スイッチの下のスリープボタンを押すと元に戻ります。

起動時は「ベーシックモード」

このパソコンは、購入したままの状態では、誤ってパソコン内部の設定を変更してしまうことができないように「ベーシックモード」という状態で起動されます。「ベーシックモード」では、モデムやネットワークの設定を変更することができません。これらの設定を変更する場合、CyberTrio-NX というソフトを使って「ベーシックモード」から「アドバンスモード」に変更する必要があります。

必要に応じて、パソコンを守る設定を行う

このパソコンには、プログラムやデータを守るためのソフトが入っています。CyberWarner-NX は、パソコンの動作に影響を与えるファイルが誤って削除されたり変更されないようにします。VirusScan for Windows 95 は、フロッピーディスクやインターネットを経由してウィルス(パソコンの動作に悪影響のある不正なプログラム)が感染することを防ぎます。必要に応じて、これらのソフトの設定を行ってください。



✓ チェック!!

省電力機能が働くとスリープランプが点灯します。

📖 参照

省電力機能 → 『リファレンス』Part5 の「サスペンド/レジューム機能」

📖 参照

CyberTrio-NX → 『リファレンス』Part3 の「利用レベルのモード変更 < CyberTrio-NX >」

📖 参照

CyberWarner-NX → 『リファレンス』Part3 の「Windows 95 の動作の監視 < CyberWarner-NX >」
VirusScan for Windows 95 → 『リファレンス』Part3 の「ウィルスの検査と駆除 < VirusScan for Windows 95 >」

もう一度、パソコンの電源を切る

最後に、もう一度電源を切って作業を終わりにしましょう。

1

画面左下にある「スタート」をクリックする
(マウスの左ボタンを1回押す)



✓ チェック!!

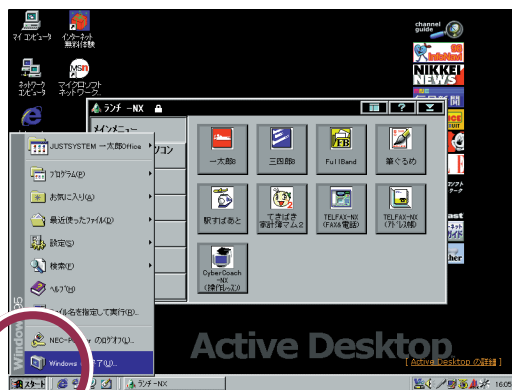
画面の右下には、現在の時刻が表示されています。この時刻を正確に合わせることができます。

📖 参照

日付と時刻を合わせるには→『困ったときのQ&A』PART 1「トラブル解決Q&A」

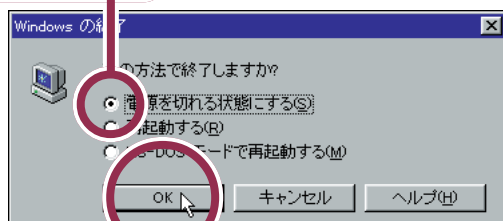
2

「Windows の終了」をクリックする



- 3 「電源を切れる状態にする」が◎になっていることを確かめる

この画面が出る



- 4 「OK」をクリックする

一瞬「しばらくお待ちください」と表示されたあと、自動的にパソコン本体の電源が切れます。

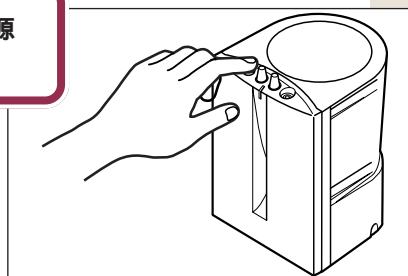
- 5 パソコン本体の電源ランプが消え、画面が暗くなってからディスプレイの電源スイッチを押す



ディスプレイの電源ランプが消灯する

パソコン本体の電源が切れると、ディスプレイの画面も消えますが、電源が切れたわけではありません。ディスプレイの電源スイッチを押して、電源を切っておきましょう。

- 6 サブウーファの電源スイッチを押す



サブウーファの電源ランプが消灯する

正規ユーザーの登録を行う

最後に、正規ユーザー(98OFFICIAL PASS メンバー)への登録を必ず行ってください。登録には、ハガキまたはFAXで「お客様登録申込書」を送る方法と、インターネットに接続して登録する方法があります。

●ハガキまたはFAX を送る

まだパソコンの操作に慣れていない方は、ハガキまたはFAXでの登録をお勧めします。添付品収納箱の中に「98OFFICIAL PASS お客様登録申込書」が入っています。記入方法などについて、詳しくは「98OFFICIAL PASS お客様登録申込書」をご覧ください。

●インターネットに接続して登録する

すでにパソコンやインターネット利用の経験がある方は、インターネットに接続して登録することができます。インターネットに接続する方法については、『インターネット入門』をご覧ください。次のページから登録が可能です。

98OFFICIAL PASS お客様カウンター
<http://www.pc98.nec.co.jp/register/>

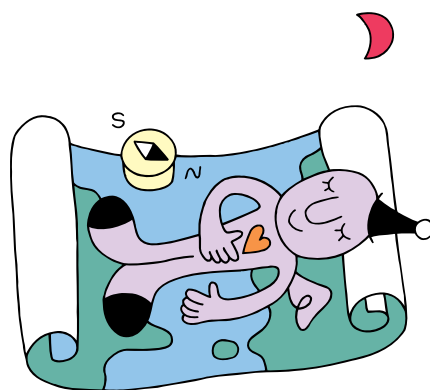
これで、パソコンの準備はOK！

一息入れたら、『STEP 2 入門』に進んで、マウスやキーボードを練習してみましょう。

なお、下記のホームページからも、98OFFICIAL PASS お客様カウンターのページにリンクがはられています。

「おたのしみリンク集」のホームページ
<file:c:\startp\main.htm/>
「98 information」のホームページ
<http://www.nec.co.jp/98/>

付 録



こんなときは

本書の「PART 3 電源を入れてパソコンを使えるようにする」で、電源を入れたあと、困ったことが起きたときは、次の説明を参考に対処してください。

キーを押しても文字が入らないとき



キーボードから何の文字も入らない

キーボードが正しく接続できていない可能性があります。キーボードの接続を確認して、キーボードケーブルを再度接続口に差し込んでみてください。

参照 Part2 の「キーボードを接続する」(p.15)

画面の文字入力欄に「|」が点滅していないと、文字を入れることはできません。マウスポインタを入力欄に合わせ、クリックしてください。「|」が点滅したら文字を入れてください。



テンキーから数字が入らないとき

文字が入力できるのに、テンキー（キーボード右側で、電卓のように数字が並んだ所）を押しても数字が入らないときは、キーボードの の下のランプが消えています。【NumLock】を押して、ランプを点灯してください。

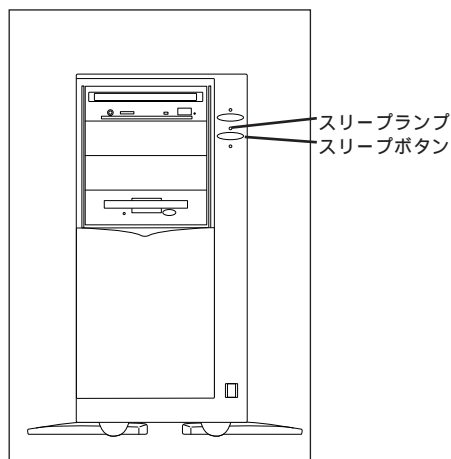
参照 Part3 の「Product ID（プロダクトアイディ）を入れる」(p.51)

自分の名前を漢字で入れたいとき

はじめてパソコンを利用されるかた、ワープロを使った経験のないかたは、本書の説明にしたがってローマ字（アルファベット）で名前を入れるようにお勧めします。漢字に変換する方法は、『STEP 2 入門』の「PART 3 キーボードに慣れよう（一太郎編）」および「PART 5 キーボードに慣れよう（Word編）」で説明していますが、名前によっては、一度で正しい漢字に変換できない場合があります。

画面が突然暗くなってしまったとき

ValuStarの設定を終わったあと、キーボードのキーに何も触れなかったり、マウスを動かさなかったりする状態が20分以上続くと、自動的に画面が真っ暗になります(このときスリープランプはオレンジ色に点灯しています)。これは、ディスプレイをつけたままにして無駄な電力を使わせないように、省電力機能が働くためです。この場合、スリープボタンを押すと元に戻ります。(元に戻るとスリープランプは消灯します)



ローマ字つづり一覧

あ a	い i	う u	え e	お o
	(yi)	(wu)		
か ka	き ki	く ku	け ke	こ ko
さ sa	し si (shi)	す su	せ se	そ so
た ta	ち ti (chi)	つ tu (tsu)	て te	と to
な na	に ni	ぬ nu	ね ne	の no
は ha	ひ hi	ふ hu (fu)	へ he	ほ ho
ま ma	み mi	む mu	め me	も mo
や ya	い yi	ゆ yu	いえ ye	よ yo
ら ra	り ri	る ru	れ re	ろ ro
わ wa	うい wi	う wu	うえ we	を wo
ん nn				
が ga	ぎ gi	ぐ gu	げ ge	ご go
ざ za	じ zi (ji)	ず zu	ぜ ze	ぞ zo

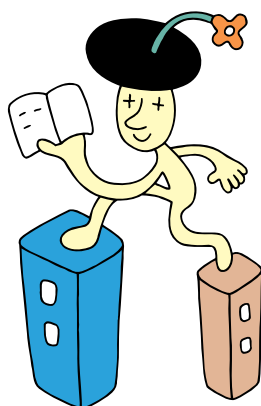
だ da	ぢ di	づ du	で de	ど do
ば ba	び bi	ぶ bu	べ be	ぼ bo
ぱ pa	ぴ pi	ぷ pu	ぺ pe	ぽ po
きゃ kya	きい kyi	きゅ kyu	きえ kye	きょ kyo
しゃ sya (sha)	しい syi	しゅ syu (shu)	しえ sye (she)	しょ syo (sho)
ちゃ tya (cha)	ちい tyi	ちゅ tyu (chu)	ちえ tye (che)	ちょ tyo (cho)
(cya)	(cyi)	(cyu)	(cye)	(cyo)
にゃ nya	にい nyi	にゅ nyu	にえ nye	にょ nyo
ひゃ hya	ひい hyi	ひゅ hyu	ひえ hye	ひょ hyo
みゃ mya	みい myi	みゅ myu	みえ mye	みょ myo
りゃ rya	りい ryi	りゅ ryu	りえ rye	りょ ryo
ぎゃ gya	ぎい gyi	ぎゅ gyu	ぎえ gye	ぎょ gyo
じゃ zya (ja)	じい zyi	じゅ zyu (ju)	じえ zye (je)	じょ zyo (jo)
(jya)	(jyi)	(jyu)	(Jye)	(jyo)

ぢや	ぢい	ぢゆ	ぢえ	ぢよ
dya	dyi	dyu	dye	dyo
でや	でい	でゆ	でえ	でよ
dha	dhi	dhu	dhe	dho
びや	びい	びゆ	びえ	びよ
bya	byi	byu	bye	byo
ぴや	ぴい	ぴゆ	ぴえ	ぴよ
pya	pyi	pyu	pye	pyo
てや	てい	てゆ	てえ	てよ
tha	thi	thu	the	tho
ふや	ふい	ふゆ	ふえ	ふよ
fya	fyi	fyu	fye	fyo
ふぁ	ふぃ	ふゅ	ふぇ	ふぉ
fa	fi	fu	fe	fo
うゝ あ	うゝ い	うゝ	うゝ え	うゝ お*
ヴぁ	ヴぃ	ヴゅ	ヴぇ	ヴぉ**
va	vi	vu	ve	vo
ぁ	ぃ	ゅ	ぇ	ぉ
la	li	lu	le	lo
や	い	ゆ	え	よ
lya	lyi	lyu	lye	lyo

* 一太郎モデルの場合 (ATOK11)

**Word モデルの場合 (MS-IME97)

索引



英字

ACアダプタの接続	37
Altキー	46
BackSpaceキー	48
Enterキー	44
Microsoft Windows 95 ファーストステップガイド	42
Num Lock	52
Product ID	42,51
Product IDの入力	51
ValueStarの設定	54
Windowsの終了	56,60
Word	55

あ行

アース線	10,33
アース線の接続	33
一太郎	55
オーディオケーブルの接続	21

か行

キーボードの接続	15
クリック	49
結露	2
コンセント	7,35

さ行

サブウーファ	23,24
使用許諾契約	50
スクロール	50
スピーカシステムの接続	22
セットアップ	43

た行

ディスプレイ	9,18
ディスプレイの接続	18
電源ケーブルの接続	35
電源スイッチ	39,42
電源の取り方	7
電源を入れる	42,58
電源を切る	56,60
電話回線の接続	29~32

な行

名前の入力	48
-------------	----

は行

パソコンの接続	14~39
パソコンのセットアップ	42~61
パソコンの置き場所	2~6
パソコンの置き方	8
フラットパネルスピーカ	22,23

ま行

マイクロホンの接続	20
マウス	17,45
マウスの接続	17
マウスの動かし方	45
モジュラーケーブル	4,29
文字を打ち間違えたら	52

ら行

ランチ-NX	55
ローマ字のつづり方	66

わかる、できる、役に立つ!!

STEP1 接続と準備



PC98-**NX** SERIES

VALUESTAR NX

VS33D/VS30D/VS26D(M)

初版 1998年2月

NEC

P



このマニュアルはエコマーク認定の再生紙を使用しています。